

NVR

実践報告書 No.18

高次脳機能障害者に対する支援プログラム

～利用者支援、

事業主支援の視点から～

平成十八年三月

独立行政法人

高齢・障害者雇用支援機構

NVR

# 高次脳機能障害者に対する支援プログラム

## ～利用者支援、事業主支援の視点から～

独立行政法人 高齢・障害者雇用支援機構  
障害者職業総合センター職業センター

# 高次脳機能障害者に対する支援プログラム

～利用者支援、事業主支援の視点から～

## はじめに

障害者職業総合センター職業センターでは、職業講習における高次脳機能障害者の利用者増加と職業リハビリテーションニーズの高まりを受け、平成10年度に「高次脳機能障害者のための効果的な支援方法について」をテーマに検討を行い、平成11年度から高次脳機能障害者の復職に係る支援技法の開発を目的に職場復帰支援プログラムを開始し、現在に至っています。

平成17年度においては、多様化する利用者ニーズ及び個々の障害特性を踏まえて効果的かつ汎用性のある就労支援技法の開発に取り組むと共に、職業準備訓練を就労を目指す高次脳機能障害者を重点として開始いたしました。

今般、当センターにおける取り組みを「利用者支援」及び「事業主支援」の視点から整理し、実践報告書として報告することといたしました。

本実践報告書が、高次脳機能障害者の就労を支援する関係者の職業リハビリテーション業務の一助となれば幸いです。

平成18年3月

独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構

障害者職業総合センター

職業センター長 佐藤修一

---

## 目次

---

<b>I. 高次脳機能障害者に対する支援プログラムの変遷</b>	<b>P 1</b>
1. 平成16年度までの取り組み	-----P 1
2. 平成17年度の取り組み及び本報告書の目的	-----P 1
<b>II. 利用者支援編</b>	<b>P 2</b>
1. 高次脳機能障害者支援プログラムの考え方	-----P 2
2. 支援プログラムの実際	-----P11
3. プログラムから職場へ(利用者支援から事業主支援へ)	-----P27
<b>III. 事業主支援編</b>	<b>P36</b>
1. 職場復帰支援に係る事業主支援	-----P36
<b>IV. まとめ</b>	<b>P44</b>
1. 今後の方向性について	-----P44
2. 家族支援の今後の課題について	-----P45
<b>V. 参考資料</b>	<b>P46</b>
1. グループワークの記録	-----P46
2. 本編23ページの事例詳細	-----P50
<b>VI. 引用・参考文献</b>	<b>P56</b>

---

## I. 高次脳機能障害者に対する支援プログラムの変遷

---

### 1. 平成16年度までの取り組み

---

障害者職業総合センター職業センター(以下「職業センター」という。)では、休職している高次脳機能障害者が円滑に職場復帰できるための職場復帰支援プログラム(以下「復帰プログラム」という。)の実施を皮切りに、高次脳機能障害者に対する就労支援を行ってきている。また、求職者が対象である職業準備訓練(以下「準備訓練」という。)においても、他の障害を有する利用者と同様のプログラムを通じて作業指導を中心とした労働習慣の体得のための支援を行う一方、高次脳機能障害の各障害特性に応じた支援を行い、特に平成15年からの2年間は、準備訓練プログラム利用前の段階としてアセスメントコースを設置し、高次脳機能障害者が自らの障害に気づき、理解を深め、対処行動や補完手段の必要性を認識することに支援の焦点をおいた取り組みを実施してきた。

これらのプログラムでは、利用者や家族が、高次脳機能障害が日常生活や職業生活場面でどのように影響するのかを障害との関係を踏まえて理解していただくよう努め、疲労やストレスのマネジメントをベースに、対処行動や補完手段について、利用者が自主的に考え、体得し、実際の職業場面で活用できるようになることを目的とした支援を実施してきた。また、事業主に対しては、利用者の障害状況についての理解や職務内容を決定する判断、職場環境の調整等についての支援が得られるよう取り組んできた。

これらの利用者に対する支援を通して、高次脳機能障害者の就労支援においては、利用者自身の障害に対する気づきや受容、理解が、就職活動やその後の職業生活の安定に大きく影響を与える事がわかってきた。職業センターにおいては、これらの知見をベースに、高次脳機能障害者に対する支援技法についてさらに開発を進めるとともに、各支援機関へその技法を普及することが求められている。

---

### 2. 平成17年度の取り組みと本報告書の目的

---

平成17年度は、準備訓練の主な利用者を高次脳機能障害者とし、アセスメントコースを本コースに吸収した。また、高次脳機能障害者に関しては、復帰プログラムと一体的に運営することとし、各利用者のニーズや状況に合わせた個別プログラムと、グループワークや作業課題等の集団プログラムを組み合わせることで実施することにより、効果的な支援が行えるよう取り組んでいる。本報告書は、職業センターでの取り組みについて、利用者支援、事業主支援の視点から整理・紹介することによって、各支援機関での高次脳機能障害者の支援に際し活用できることを目的としている。

なお、文中表記として、「当プログラム」として記載されている表現については、復帰プログラムと準備訓練の双方において共通の考え方を指しており、各プログラム独自の内容については、それぞれのプログラムの略称を使用している。

---

## Ⅱ. 利用者支援編

---

### 1. 高次脳機能障害者支援プログラムの考え方

---

#### (1) 理論的背景

高次脳機能障害者に対する職業リハビリテーションについて後藤(1998)<sup>1)</sup>によると、「ある場面で学習した知識や技能を別の場面で発揮することが困難なため、リハビリテーション施設で学習したことを実際の職場で応用することが出来にくい」(FawberとWachter,1987)、「伝統的な職業リハビリテーションのアプローチは頭部外傷者の雇用の問題を解決してこなかった」(Kreutzerら、1988)とし、就労への具体的アプローチとしては「援助付き雇用」(Supported Employment)の適用が主張されてきたとしている。一方で、高次脳機能障害者の認知障害に目を向けた場合、失われた機能を代償するためには、統制のとれた方法で集中的に学習する過程が必要であり、そのためには高次脳機能障害者の複雑な認知、神経行動及び情緒的後遺症に対するアプローチをまず行うことが前提、という主張も聞かれる(Ben-Yishayら、2001)<sup>2)</sup>。後者の主張は、高次脳機能障害者が自身の障害認識を深めるためには、まず障害者が混乱状態に陥る機会を極力少なくすることが重要であり、そのために環境を構造化することを求めている。さらに、同種の障害を持つグループによって構成された共同体に属することにより、心理的不安を感じないですむ環境下において、適応的な認知及び対人的技能の獲得に努めるようになることを期待する、という考え方を基本としている。

これらの就労支援にあたっての考え方は、支援方法という点において一見相矛盾するようだが、高次脳機能障害者の障害特性を配慮した環境設定に配慮するという点において一致する。つまり、途中で障害を受け、混乱した心理状態にある(もしくは、あった)高次脳機能障害者に対する支援は、まず自己の再構築を図ることが重要であり、構造化された環境における共同体的カリキュラムの中で、認知的アプローチに立った支援を行う必要がある。一方で、それらの環境で学習した知識や技能を就労場面において活用することが、障害特性上困難であるということの意味している。そこで高次脳機能障害者への支援で求められることは、構造化された環境における障害認識のための認知的アプローチと、獲得されたスキルを就労場面で活用することを目的とした、橋渡しとしての「般化」である。

当プログラムは、これまで職業センターが、障害者職業総合センター研究部門と連携して開発にあたってきた高次脳機能障害者に対する支援技法のノウハウを踏まえ、さらに認知面におけるアプローチについて、ニューヨーク大学医療センター・ラスク研究所における「脳外傷者外来通院治療プログラム(Brain Injury Day Treatment Program)」や、東京医科歯科大学難治疾患研究所の橋本医師の実践されているプログラムを参考に組み立て、かつ、「般化」という視点に着目し、支援に取り組んでいる。

## イ. ニューヨーク大学医療センター・ラスク研究所「脳外傷者外来治療プログラム」の考え方

高次脳機能障害とは、外傷性脳損傷、脳血管障害などの器質性脳病変の後遺症として、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの認知障害等を呈するものである。これらの高次の認知機能障害は、独立して、あるいは互いに作用を及ぼしあいながら、高次脳機能障害者の社会生活能力に影響を与えていると考えられている。

ニューヨーク大学医療センターラスク研究所における「脳外傷者外来通院治療プログラム」では、「自己の障害の知識や感情面をも含めて心の統合を図り社会復帰を図ろうとする心理治療的なプログラムであり、リハビリテーションの目指すところとして、脳損傷の結果起こる問題に対して、個人がよりよく対処する(能力を発揮する)援助をすること」といわれている(先崎・枝久保・新井、1999)<sup>3)</sup>。このプログラムにおけるセッションでは、リハビリテーションの指針として、表1の項目があげられている。

表1 評価やリハビリテーションにあたって指針となる項目

1	気づき-理解 (Awareness-understanding)
	・「自分の中核となる欠損」がどのようなものかについて知っている
	・なぜ、いかに、自分の欠損が毎日の生活を妨害するかについて知っている
	・リハビリテーション、代償を必要とする理由について知っている
2	順応性、可逆性(Malleability)
	・他者に共感できる
	・自ら行動を修正しようとする、修正できる
	・コーチに従う
3	障害の受け入れ(Acceptance)
	・失われたものを悲しんだり、振り回されることを止める
	・楽しむ能力がある
	・リハビリテーションを有意義でなすべきものとしてとらえることができる
	・希望、自分に価値がある感じ、自尊心を取り戻している
4	代償(Compensation)
	・代償法を習得している、利用している
	・新しい言語、観念的な情報を学習する能力がある
	・実際にやることをルーティン化する能力がある
	・トラブルを解決する能力がある

出典 先崎章、枝久保達夫、新井美弥子:ニューヨーク大学医療センター・ラスク研究所  
「脳損傷者外来通院治療プログラム」で行われている集団を利用した認知・心理療法  
— Journal of Clinical Rehabilitation, Vol.8 No.6, 1999

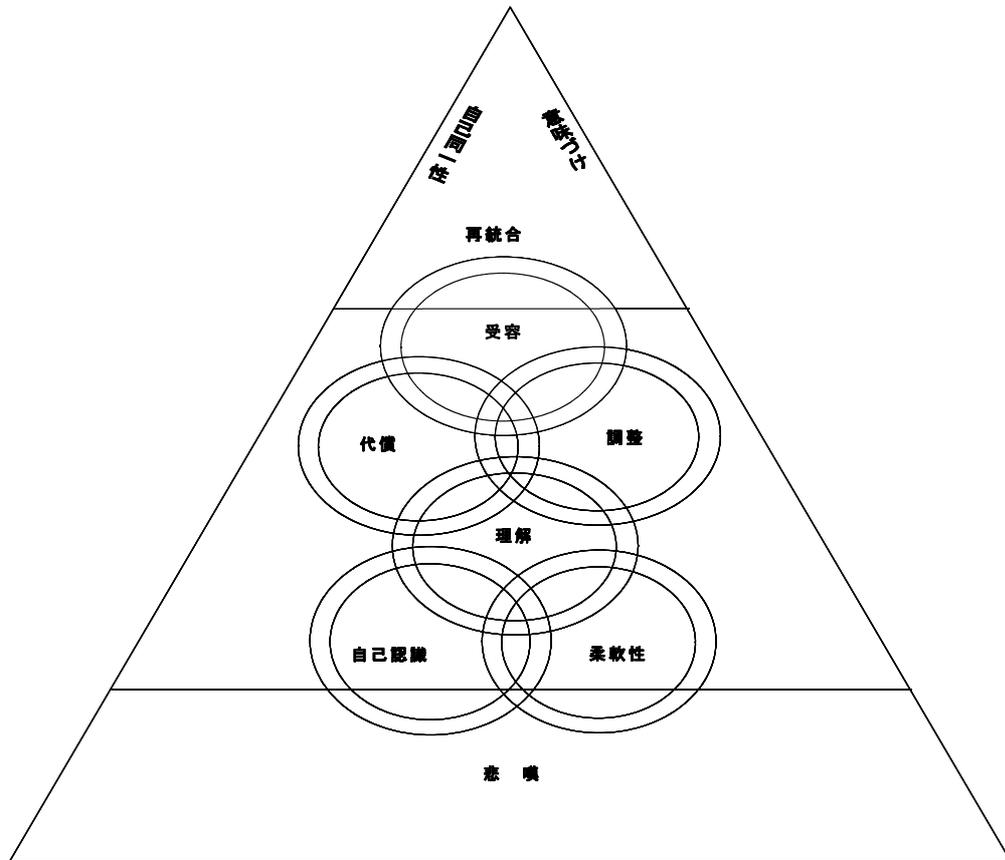


図1 リハビリテーション後の改善について階層的で重なりあう臨床的指標

また、ラスク研究所では、脳損傷者が段階的に最適な能力を獲得する様子を、図1のように表している。この図は脳損傷者の障害の認知過程を示すモデルであり、それによると、脳損傷者は、以下の流れで障害を受容し、自己の再統合を図るとされている。

#### ①悲嘆の段階

受障前は、これまで築きあげてきたアイデンティティがあり、それを踏まえた将来像を持っていたが、突然の受障により思わぬ変更を迫られることになり、さらに、それまで自分一人でできていたことも他人の支援や指導を受けなければならないことについて受け入れられず、このことに自尊心を傷つけられたり、相手の言動に対して憤慨する、としている。

#### ②柔順性、自己認識、理解の段階

それでも憤慨することなく、従順に支援を受けるという姿勢を持つことが求め続けられる。さらに、新たな代償的方法を習得するために、気長な練習を続けることに、理解を求められる。そのためには、支援プログラムの初期段階において、最低限の自覚、従順性、理解が得られるための環境を整えることが必要である。それには、多様な、しかも組織化された、相互に強化しあう個人及びグループで、体験共有を行いながらの訓練を受けることが必要である、としている。

### ③代償、調整、受容の段階

自己認識、柔順性、理解をある程度獲得した後は、障害を代償する方法を学習する段階となる。この段階では、イ)学習した補完手段を、発揮すべき状況で適切に発揮することができる、ロ)学習した補完手段を保持し、新たな環境においても応用するには、能力面で、実施する上でも限界があることがわかってくる、ハ)自分自身で修正できる部分と、予想外の展開下で対応できず、支援が必要となる部分がはっきりとしてくる、という段階で推移し、最終的には自分の問題をどれだけ予測できるのか、が就労の可能性を考える要因となる。

障害受容の判断については、利用者が、イ)失った機能を嘆くことがなくなった場合、自分の脳損傷について平静さを保ちながら客観的に話すことができるようになった場合、ロ)ユーモアなど生活場面の小さな喜びを楽しめるようになった場合、ハ)リハビリで獲得したことを価値や意味があったと感じ、そのように話すことができる場合、ニ)希望を持って自分に価値があると感じ、自分を大事にするような言動を示す場合、等が指標になる、としている。

### ④再統合、自己同一性、意味づけ

リハビリテーションプロセスのゴールは、地域・社会に再統合され、人生に新しい意味を発見し、自己同一性を再構築した時、としている。

そして、早くから高次脳機能障害に取り組み、同プログラム理論的枠組みの基礎を作った、Kurt Goldsteinは、高次脳機能障害者が、ある課題について遂行困難な状況にある場合、その原因についても着目して指導する必要があるとしている。その原因として、①脳損傷による機能低下あるいは障害の直接の影響、②大きな混乱状態(catastrophic reaction)に陥る事を経験したくないため、防衛的に残存能力を使おうとしない場合、③実際に混乱に陥っている場合、の3点を挙げている。これらを踏まえて、支援者は支援のプロセスを段階的に設定することによって、利用者にとって過度な負担のかからないように支援することが必要となる。参考までに、表2のとおりGoldsteinの支援プロセスの考え方を紹介する。

表2 Goldsteinの支援プロセス

- ①環境を構造化し、適切に整えることによって、患者が混乱に陥る機会を少なくする。
- ②構造化された環境で、誰かの指示に従って生活することは、患者のライフスタイルを制限することになる。従って、制限のある生活は、本人の理解と自発的選択があって初めて受け入れられるものである。
- ③治療者の役割は、脳損傷者が制限付きの生活を受け入れられるように援助することである。
- ④重要な点として、脳損傷者の認知と情緒の障害に対して、患者が自分の障害の性質と障害が及ぼす影響を理解できるように援助することである。ただし、患者が自覚を得る過程で、志気を失わせることがあってはならない。患者が機能回復のための努力を続けられるように、治療側の配慮が必要である。

⑤治療を進める過程で、治療者は、患者のどの症状を改善しようと努めるかを判断しなくてはならない。

⑥患者が、自分を健康と感ずるまでには、自分が失った機能や新たに課せられた制限を受け入れて、被害者意識を払拭することが必要である。リハビリプロセスの最終段階においては、生きていることに価値があると感じられる事が必要である。

## ロ. 高次脳機能に与える影響

国内では、東京医科歯科大学難治疾患研究所において、高次脳機能障害者通所プログラムを実施している橋本は、ラスク研究所のプログラムを踏まえ、我が国における高次脳機能障害者が、社会的要因などからどのような影響を受けているのかについて、図2のように表している。橋本は、「各高次脳機能以前の問題として、神経疲労(易疲労性)、発動性の低下(意欲低下)、脱抑制などが存在する場合、これらの解決なくして各種機能障害への対策は立てられない」ことから、高次脳機能障害者を支援するには、その利用者を、医学的・身体的な側面のみならず、受障原因に結びつく要因や、現在の社会・地域・家族的におかれている状況、受障時の状況等も含め、全人格的に捉えることが必要であり、それらを無視して支援することは、効果的な支援につながりにくいとしている(橋本,2005)<sup>34)</sup>。

受障要因からの影響については、例えば、a)身体面の麻痺が疲労に与える影響、b)交通事故や労災等、受障の直接の原因となった事故等の補償問題が意欲や感情統制に与える影響、c)家族の障害理解が本人の障害受容に与える影響、等をあげることができる。つまり利用者を、障害からだけではなく、受障前後のエピソードも含め、全人的に捉える事が必要である。

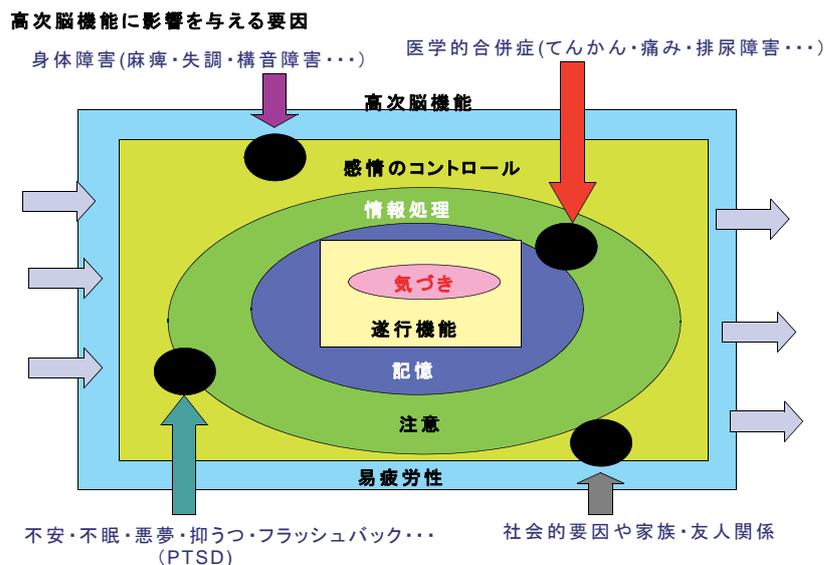


図2 高次脳機能に影響を与える要因

出典:平成17年度 職業リハビリテーション実践セミナーより

## (2) 職業センターにおけるプログラムの支援過程

一般的に高次脳機能障害は、障害受容が難しいと言われているが、当プログラムでは、高次脳機能障害者への支援を行うにあたり、利用者に対し統制外の負荷を与えることを極力排除し、利用者が志気を持ってプログラムに望むことができるようにすることが、障害受容のための必要な要件と考えている。利用者の障害受容のための支援を行うには、利用者自身が自ら障害に気づき、理解し、かつ対処行動や補完手段を活用することで与えられた職務課題に対応していくことができる状態に至ることを支援の当面の目標と捉えている。そして、それらの手段を他の場面や他の支援者環境下、また、他の課題に対する場合においても般化して活用できることを最終的な目標としている。

当プログラムにおいては、集団場面でその効果を活用し、利用者の障害認識を段階的に促すことが可能であるとの考えから、障害者職業総合センターの研究部門で整理した、「職業リハビリテーションにおける本人の障害認識、家族の障害理解の過程」に沿って支援の段階を図3のように設定し、支援に取り組んでいる。

これらの支援過程は、プログラムの事前相談、評価期、集中トレーニング期、そして、具体的な就職・復職活動に入る実践トレーニング期のそれぞれの段階において、利用者個々の状況にあわせたタイミングや場面等、アレンジを行いながら取り組んでいる。

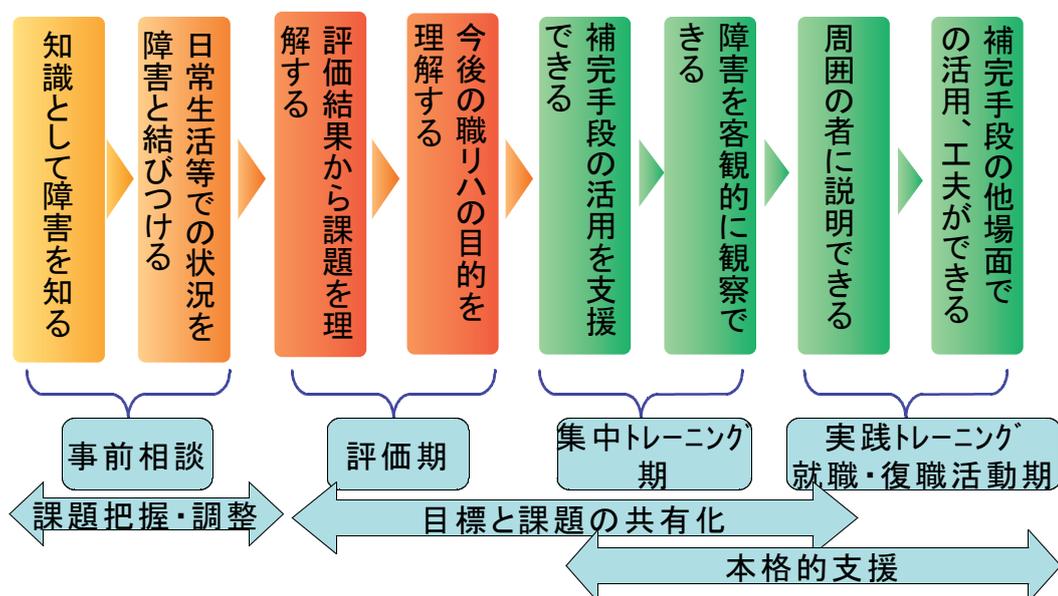


図3 障害受容過程とプログラムとの関係

## イ. 事前相談

### ①知識として障害を知る

職業センターのプログラム利用者は、医療機関において高次脳機能障害と診断されていることを利用要件としていることから、プログラムの利用者は、ほとんどが、診断の際に障害の説明を受けている。しかし、自身の置かれている状況の変化のために混乱した心理状況下で説明を受けている場合もあり、説明内容を忘れていたり、自身のことと捉え、理解できていない場合が多い。

事前相談では、医療機関からどのような説明を受けているのか、それについて、どのように理解しているのかを確認し、必要に応じて、一般的な障害の現れ方等について説明を行い、知識として障害を知ることができるよう支援している。この段階では、利用者が自らの障害について受け入れることができていないことが多い。

### ②日常生活や作業で現れる状況を障害と結びつける

利用者本人や家族から、受障の原因となった事故や疾病の前後で、本人の日常生活における行動において変化があるかどうかを確認する。変化がある場合には、具体的なエピソードを積み上げ、それが障害とどのように結びつくのかについて説明を行う。説明を行う際には、単に各障害の日常生活の現れ方のみを説明するのではなく、前述の「高次脳機能に影響を与える要因」にも着目し、利用者の置かれている状況について、できる限り多くの情報を集め、統合的に捉えることが必要である。

なお、この作業は、事前相談の段階でもすでに着手しているが、評価期における利用者の状況を行動観察することにより、より具体的に結びつけることが可能となる。

## ロ. 評価期

### ①評価結果から、当事者の課題を理解する

職業生活面における自己管理、対人能力、作業遂行能力等、就職や復職における課題を整理している。

### ②今後の職業リハビリテーションの目的を理解する

整理された課題に対し優先順位を付け、プログラムを通じてどのような支援を行うのか、本人や家族、復帰プログラム利用者の場合には、復帰先事業所担当者に対し説明を行い、職業リハビリテーションの目的について確認、共有し、理解を得られるよう取り組んでいる。また、支援者の役割や家族・本人に期待すること、そして、復帰プログラムの場合には、事業所に期待することについても、併せて理解を得られるよう取り組んでいる。

## ハ. 集中トレーニング期

### ①適切な補完手段を活用することができる

補完手段の確立のためには、利用者本人が、日常生活や作業遂行面において、障害が影響している面があることや、補完手段を活用することによって作業遂行が可能となることについて認識することが必要である。そのためには、具体的な作業場面において、ミスや十分な結果が出ていないという事実をリアルフィードバックすることが重要となる。利用者と支援者などで事実を共有し、なぜそうなったのか、利用者と一緒に分析することによって対処方法や補完手段を試行的に取り込むことについて、利用者自身が納得することが可能となる。

仮に、事実の共有を行う前にミス等の発生原因についての分析を支援者が行い、それを一方的にフィードバックすると、利用者が混乱し、感情の統制を乱し、支援関係にも支障をきたす可能性が高いことに留意する必要がある。

### ②障害を客観的に観察できる

補完手段の活用が徐々にできると、利用者は、その有効性を認識するようになる。補完手段の活用ができるようになることで、利用者は、自身の障害について受け止めることができるようになる。障害があることを認識するには、ミスを積み重ねた結果からではなく、「対処行動や補完手段を活用することによって課題遂行を達成することができた」という成功経験を積み重ねることにより認識することが可能となる。補完手段の活用を重ねることによって、利用者は、障害を客観的に捉える事ができるようになると考える。

## ニ. 実践トレーニング期

### ①障害や補完手段等を周囲の者に説明できる

就職、あるいは復職のためには、構造化された環境で活用できるようになった補完手段を、実際の職業場面で活用する事が必要である。そのためには、利用者自身が障害や補完手段について、職場の上司や同僚に対して説明し、理解を求め、支援を得ることが重要である。そのため準備訓練では、面接練習を重ね、面接場面において自らの障害や補完手段について説明できるよう支援している。また、復帰プログラムにおいては、職場復帰のキーパーソン(多くの場合が人事担当者)に対して、復帰プログラムの実施状況も含めてプレゼンテーションを行うよう支援している。プレゼンテーションの目的の中には、復帰先の同僚に障害に対する理解を求める他に、復帰にあたり、元の職場ではなく他部署・他職務への復帰を考える必要がある場合、人事担当者が他部署・他職務担当者に対して利用者の状況について説明を行うことができるようにすることも含まれている。

### ②補完手段を他の場面やよりよい方法に工夫して活用することができる

職場内での自立のためには、実際の職務内容に応じ、補完手段の使用方法や範囲を拡

大したり、応用、工夫することが重要であり、そのための支援を職場内で行うことが必要である。

### (3) 支援のポイント

高次脳機能障害への支援を行う際、支援者は、利用者のどの障害にアプローチするのか、各障害の関係性に留意する必要がある。当プログラムでは、支援の際のポイントを表3のように捉えている。

表3 高次脳機能障害の各障害に対する支援のポイント

	支援時のポイント
脳・神経の易疲労性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が受障による悲嘆状態から抜けきれずにいる場合には、常に脳や神経が疲労困憊の状況にある事が多い。</li> <li>・受障による自身の変化について受け入れられず混乱していることも、易疲労性に影響を与える要因として捉える必要がある。</li> <li>→疲れている場合には、まず休養が必要。</li> </ul>
意欲・感情統制への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲や感情統制面は、脳や神経の疲労の影響を大きく受ける。脳・神経が疲労状況にある時に、安定した心理状態であることが難しいのは当然と捉える。</li> <li>・作業課題に対して意欲的でない場合、その作業課題の手順や目的、自分にとっての意味がわからない場合と、疲労が影響している場合とが考えられる。</li> <li>→感情統制が困難な場合においても、何が原因であるのかの分析に先立ち、まず、休憩を取らせる必要がある場合がある。</li> <li>→意欲に欠けている時は、課題の見直しが必要。それ以前に疲れているかどうか注目すること。</li> </ul>
注意面への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳や神経の疲労は、注意の集中・持続に多大な影響を与える。注意面によるミスが見られる時には、休憩のマネジメントが必要。</li> <li>・意欲的でない時や感情の統制が困難な状況の時には、注意が散逸しやすく、様々な刺激に対して反応してしまうことがある。</li> <li>→注意集中を促すには、補完手段の他にまず覚醒度合いについてチェックすること。</li> </ul>
情報処理面への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・注意集中が困難な状況にある場合には、与えられた情報を取捨選択し、整理することが困難となる。また、自分が取ったメモから必要な情報を抽出することが困難になる。</li> <li>→情報処理能力を高めるためには、抽出すべき情報について、注意を喚起できるような補完手段を講じること。</li> </ul>
記憶障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報処理面での取捨選択ができない場合、記録をとるべき内容がわからず、メモを取る等の補完手段を取ることができない。</li> <li>→記憶障害を補完するためには、メモを取る際の情報の提供の方法について支援者の支援方法を再確認すること。トータルパッケージのメモリー・ノート使用を促すキーワードや指示例を活用。</li> </ul>
遂行機能面への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報を整理し、計画し、処理し、結果を確認する一連の作業を行うには、情報の取捨選択・抽出や記録に基づいて物事を振り返ったり、予測をつけることが必要であるが、それらは、情報処理面や記憶面の影響を受けやすい。</li> <li>→計画を立てるための必要な情報を整理し、チェックリストや手順書を作成させる。</li> </ul>

これらは支援を行う際のアプローチをも表している。特に、各障害に対するアプローチを行う際、より上位の障害項目の影響の度合いについて確認を行っている。即ち、上位の障害が下位の障害に影響している可能性があると考えからである。

具体的には、注意障害に焦点を当てた支援を行う際、支援の前提として、脳・神経の疲労度合いはどうであるのか、作業課題に対する利用者の意欲・動機付けは図られているのか、感情は安定しているか等について確認することが必要である。仮に、脳疲労が高い場合、作業に対して意欲的になることができず、安定した心理状態で作業遂行に臨むことは期待できない。そうすると、注意が散漫になり、作業ミスを多発することになる。この場合に支援者は、注意喚起を促すための補完手段の提案やその活用状況のフィードバックを行うことも必要ではあるが、まずは休憩をとらせ、その上で作業に意欲的に臨めるような動機付けを行うことが必要となる。

逆に脳・神経疲労が無い、もしくは少ない場合で、これから行おうとする作業の目的が自己の職リハの目的に合致している場合、利用者は、作業に対し意欲的で、かつ安定した心理状態で作業に臨むことができる。すると補完手段の活用についても結果が伴い、成功経験を深めていくことにつながる。

実際には、障害を客観的に捉え対処方法の必要性を認識する段階に至っていても、課題処理を行う上でのミスが再発した場合、それが精神的な疲労を招き、一時的に意欲が減退することもある。しかし、一度この流れに沿った支援を受けた利用者は、ミスを発生することなく安定した作業を行うための留意点についてセルフチェックを行うことができるようになり、早い意欲の回復が期待できる。実際の職場では、作業で失敗した際に、それが意欲減退や作業停止に繋がらないことが求められるが、そのためには、まず、疲労・ストレスのマネジメントが重要であると考えている。

---

## 2. 支援プログラムの実際

---

職業センターでは平成17年度、前述の「高次脳機能障害者支援プログラムの考え方」に沿って支援技法の開発を行ってきたが、その実際については、以下の通りである。なお、今年度は、復帰プログラムと準備訓練の両プログラムについて、作業課題場面やグループワーク等、カリキュラムの多くを共有して実施していることから、まずは共通部分について記す。

### (1) 個別相談・グループワーク・作業課題の連携について

当プログラムでは、利用者の障害認識を深めるために、図4のように、グループワーク、作業課題、個別相談の三種の支援場面について、前述の図3「障害受容過程とプログラムとの関係」に記載されている各々の段階に有機的に連携させながら支援を行っている。例えば、グループワークにおいて、作業場面での障害の現れ方と補完手段について話し合いが

持たれた後、実際の作業場面でその方法を試行し、後の個別相談で結果を踏まえて自身の障害について内省を深めるような支援を行う等、各々の場면을効果的に繋げることにより、障害認識が効果的に進むようにしている。なお、各々の場면을繋げるためには、メモリーノート等による行動記録を利用者に促すことが前提となる。

なお、場面は分かれていても共通する留意事項として、①利用者自身の自己決定を尊重する働きかけを行うこと、②必要なタイミングで正のフィードバックを行い、適切な行動を強化すること、③適切に休憩を取り、疲労をためさせないこと、等があげられる。

ここでは、個別相談、グループワーク、作業課題のそれぞれの実施上のポイントについて整理する。

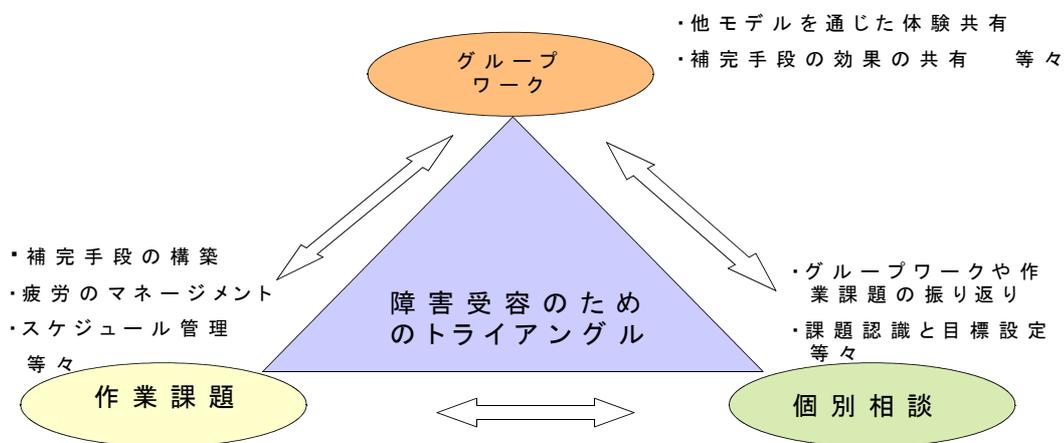


図4 障害受容のためのプログラム要素

## イ. 個別相談

高次脳機能障害者に対する個別相談では、中途障害が故に、障害に対する知識付与から理解促進、補完手段や対処行動、対人対応、就職支援の場合には希望職種の選択と障害との関係、復職支援については受障前と復職後での職務や職場の変化への対応等々、テーマが多種多様に及ぶ。また、記憶障害や遂行機能障害の特性がある場合、相談内容が積み上がらない、話題が拡散し焦点ぼけし、その結果として、利用者と支援者双方が疲弊して相談を終了する、という危険がある。そこで、職業センターでは、以下の点に留意して個別相談を行っている。

①何が課題であるのかを明らかにする。

相談すべき内容が多岐にわたるため、何が課題となっているのかについて明確に示す必要がある。相談でターゲットにすべき内容は、「障害受容過程とプログラムとの関係」(図3)に沿って行っている。

## ②機能分析を活用する

作業課題のみならず、日常生活や職業生活全般において発生している課題については、機能分析の手法を活用し、対処すべき課題について明確にするよう心がける。

## ③利用者自身の問題解決能力に配慮する

対人コミュニケーションのとり方や補完手段の検討をテーマとする場合、支援者側が先に答えとなるような提案をしてしまいがちであるが、利用者によっては、十分な検討を行う前に提案されると逆に提案内容に対し拒否的になることもある。利用者自身の問題解決能力を向上させるために、まず、課題となる事実を確認し、その対処方法について利用者自身の考えを引き出すよう配慮することが望ましい。

## ④一度に相談する内容を絞り込む

相談すべき内容は多岐にわたるが、相談内容が整理されないことによる利用者の混乱や疲労を防止するために、一度に行う相談は絞り込んで実施することが望ましい。相談内容について優先順位をつけ、どのタイミングでどの相談を行うのが効率的・効果的であるのかを考え、時系列に留意して相談を行う。

## ⑤ホワイトボードを活用する

記憶の障害により相談内容が積み上がらない場合や、注意の障害のために相談の焦点がぼやける場合、また、遂行機能障害のために相談内容が拡散する場合があるが、そのための補完手段として、ホワイトボードを活用している。相談のテーマが明確になったところでテーマを明記し、相談の経過をホワイトボード上に記していく。場合によっては、その場で機能分析的に相談内容を整理することもある。視覚的に相談内容を示すことで、前述の問題点の多くをクリアすることができる上、プリントアウトもしくはデータとして記録できるホワイトボードであれば、それを事後、メモリーノートサイズに縮小したうえで利用者が保存し、後に参照することも可能となる。

## ⑥休憩に配慮する

相談場面における利用者の注意集中の持続は、個人差があるものの、経験的には30～40分ほどが限度と思われる。相談が長引くと、相談内容についての利用者の理解状況や、判断する能力にも影響を与え、相談の効果が期待できない場合もあることから、途中で休憩を取る、またはそこまでの相談を整理した上で次回の相談につなげる等の対応をしている。

## ロ. グループワーク

### ①グループワークの目的

グループワークは、他のピアモデルとの意見のやりとりを通じて、情報交換や体験共有を図ることにより日常生活や作業面で現れる障害を理解し、その補完手段を獲得することを目的としている。共通する体験を有しているピアモデルからの話を聞くことによって、自己にも共通する障害について客観的に捉えることができる。また、補完手段を有効に活用している良いモデルを示されることにより、補完手段の受け入れについての抵抗感が薄くなる効果がある。そして、同じ障害を有する者同士で相互に支え、励まし合うことにより、安定した感情統制を図り、より積極的な心理状態で課題に臨むことができるようになると考えている。また、本格的支援期における具体的な就職活動や復職に向けた事業所との調整に入る段階では、グループワークの場を活用して面接練習や、職場向けプレゼンテーション練習を行うことにより、他者への障害の伝え方や、他の場面や課題に対する補完手段の応用を図る上で学習を行うことにつながると考えている。

## ②グループワークの流れ

特に、準備訓練においては、グループワークを高次脳機能障害についての理解や補完手段の体得のためのグループワークと、就職活動のためのグループワークである就労セミナーの2種類で実施している。なお、利用者全体で日々行うミーティングについても基本的にはグループワークと同様の目的、効果が期待できると考える。

### <高次脳機能障害についてのグループワーク>

#### ○実施時期

カリキュラムの導入期から中～後半期及びカリキュラムの前半に集中的に行う。

#### ○流れ

##### ・初回～第2回目

参加者相互の体験談を通じ、日常生活や作業における障害の出方等についての、体験共有を図る。話された話題は、各障害や日常生活面や作業面における影響の現れ方ごと等にグループ化し、今後のグループワークや個別相談のテーマの洗い出しを行う。併せて、各障害に対する知識付与を行う。

##### ・第3回目～6回目

初回～第2回のグループワークを踏まえ、脳・神経疲労、意欲・感情統制等の神経心理的側面や、注意、記憶、遂行機能等の各障害側面、また、対処行動や補完手段等の各テーマを設定して実施する。テーマはあくまでも議論の入り口として設定しており、議論の展開次第では柔軟にテーマ修正を行うことがある。当プログラムの場合、プログラムの前半は、各障害についてのテーマが中心となるが、プログラムが進むにつれて、注意や記憶という各障害をテーマにしても、議論は脳・神経疲労のマネジメントや、補完手段に向かうことが多い傾向がある。

##### ・訓練中～後半

プログラムのカリキュラムが進むにつれて利用者の障害理解も深まっていくが、それに伴い参加者は、自らの障害についてグループワークの場で客観的に説明することができるようになってくる。この段階になると、テーマは、障害を周囲の者にどのように説明するか、という段階になり、具体的な就職活動である就労セミナーへつなげていくことになる(図5「グループワークのテーマの流れ」)。

#### <就労セミナー>

##### ○実施時期

訓練の前半から後半にかけて実施する。

##### ○流れ

「障害のオープン・クローズについて」、「求職活動の進め方」、「求人情報の集め方」、「履歴書の書き方」、「面接の受け方」、「模擬面接」がおおよそのテーマの流れである。一般的な職業指導的内容に加え、障害が作業面でどう影響するのか、それを踏まえた職種選択はどうすればいいのか、事業所に対して障害やそれに対する補完手段をどのように説明すればいいのか等、高次脳機能障害を踏まえた議論となっている。

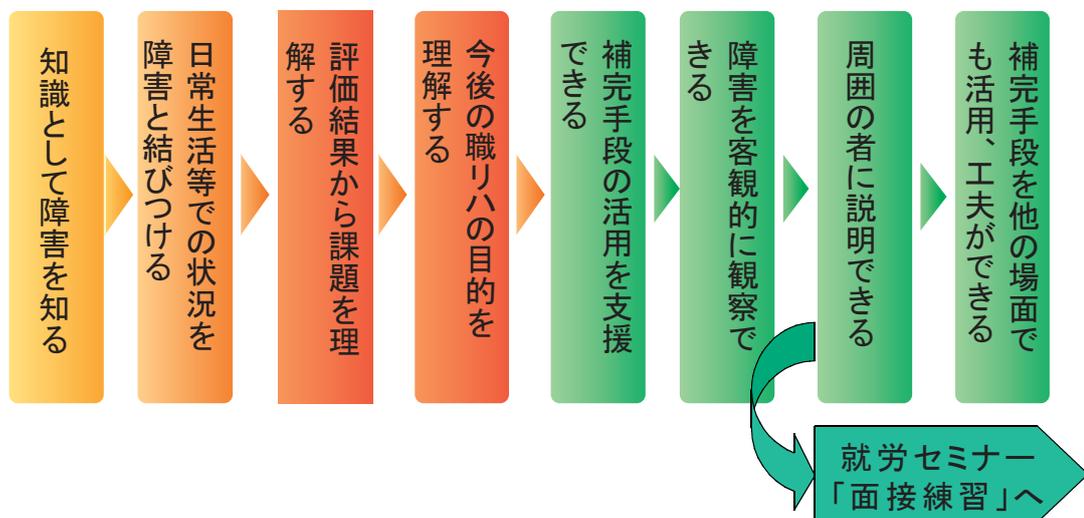


図5 グループワークのテーマの流れ

#### ③グループワーク実施上のポイント

##### ○午前中に実施する

覚醒度合いの比較的高い午前中に実施する。時間は休憩を挟み、1時間～1時間30分

程度で実施している。

#### ○ウォーミングアップを実施する

発言への意欲を向上させるためのウォーミングアップを行っている。題材は、テーマに直結する必要はなく、連想ゲームやクイズ等、発言を引き出せる内容であれば良い。

#### ○メンバー構成

グループワークの目的は、大別して障害に対する認知を深めるための内容と、就職・復職を目指す内容とに分けられる。参加者におけるプログラム利用期間にばらつきがある場合は、利用期間の長い利用者が率先して体験談を話したり、他の利用者の意見に強化を促すコメントをすることが期待できる。メンバー構成は、グループワークの目的に応じて決定している。

なお、失語症の参加者がいる場合には、その利用者の了解を得た上で、失語症の障害特性を説明し、他の利用者の配慮を要望する場合もある。

#### ○利用者からの質問への対応

グループワーク実施中、利用者から質問があった場合、司会者(職員)は、司会者自らが答えることが適切であるのか、それとも他の利用者が答えた方が有効であるのか、判断しなくてはならない場合が多い。このような場合、当プログラムでは、障害の知識付与に関する場合については司会者が答え、それ以外の内容についてはできる限り他の利用者からの回答を引き出すようにしている。他の利用者からの回答を引き出すことによって、利用者間の議論を活発にすることができるようになる。

#### ○利用者の動きを引き出す

利用者の意見交換は、基本的に座ったその場で行ってもらうが、即興的にSSTを実施したりジェスチャーを取り入れたりする等、利用者の動きを伴わせるような運営をすると、利用者自身の注意集中や意欲喚起につながる事がある。

#### ○意見を引き出すための配慮

実施回数の浅い段階ではグループの親和性・凝集性が十分で無いことから、意見を出しにくい状況がある。当プログラムでは発言を引き出すツールとして、大型の付箋紙を活用している。

写真1は、訓練の第2週目で実施したグループワークの際のホワイトボードの様子を写したものである。また、図6は写真1を整理し利用者に配布した。「受障前後で何が変わったのか」のテーマで始めたこのグループワークでは、発言のきっかけを作るために、以下の手続きを取っている。(参考資料として、本グループワークの発言記録を巻末資料として掲載している。)

イ)はじめに、受障後、実感している変化について、一つの付箋紙に一つずつエピソードの記入を依頼する。なお、記入内容は簡潔にしてもらうよう求める。

ロ)次にその付箋紙を各自が順々にホワイトボードに貼り付けながら、自らの障害特性について、他の利用者に説明していく。貼り付ける箇所は、先行して貼り付けられている

付箋紙を見て、自分の記入したものが内容的に近いと思えるものがあれば、その近辺に貼り付けるよう求める。なお、前に出て説明することが難しい利用者がある場合には、進行役が、その利用者の考えを確認しながら貼り付けを代行する場合もある。

ハ) 全員の貼り付けが終わったら、改めて全体の付箋紙を見渡し、共通する内容をグルーピングしながら、司会者が貼り付けた利用者から意見を求めたり、それに対する他の利用者の体験を引き出していく。

ニ) 特に話題が集まったエピソードを中心に、体験談を引き出していく。

ホ) テーマについては、次回以降のグループワークのテーマ候補とする。



写真1 グループワークでのホワイトボードの活用

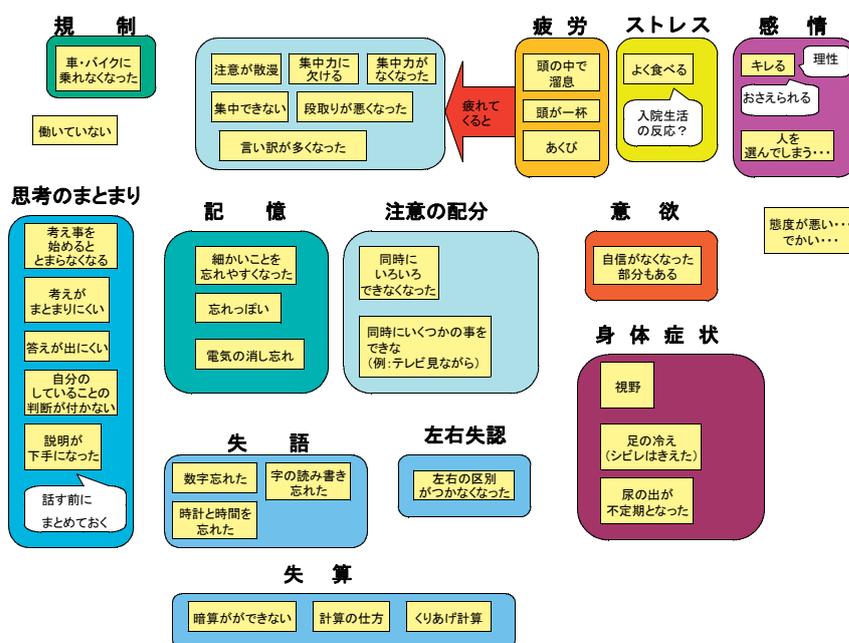


図6 写真1のまとめ

#### ④ミーティングの流れ

##### ○実施時期

カリキュラム開始日から終了日まで、毎日作業開始前と作業終了後の2回行う(図7)。

##### ○実施方法

ミーティングの基本的な内容は図8のとおりである。ミーティングの司会については、利用者の状況にもよるが、当番制で利用者自身が行うことでグループの親和が深まり、利用者間の協力体制の強化、ミーティングへの意欲喚起、発言のしやすさに繋がり、グループの力動を効果的に引き出せると考

時間	日 課
9:30	朝のミーティング
10:00	作 業 (または、グループワーク・就労セミナー)
12:00	昼休み
13:00	作 業
14:45	帰りのミーティング
15:15	

- ※1. 毎週火曜日は「グループワーク」を行います。
- ※2. 毎週木曜日は「就労セミナー」を行います。
- ※3. 週1回「個別相談」を行います。
- ※4. このスケジュールは基本となるものであり、必要に応じて変更する場合があります。

図7 ミーティングのタイミング

える。基本的な司会は利用者が行うが、障害に関する内容や補完手段、対処方法についての発言があった場合は、必要に応じてスタッフが質問に答えたり他の利用者に意見を求め、アドバイスを行うことが必要となる。利用者が単独で司会することが難しい場合や初めて司会を行う場合は、スタッフと一緒に、利用者の意見を事前に聞くなどの打ち合わせを行い、柔軟に対応する。

##### ○朝のミーティング

朝のミーティングでは、イ) 体調確認、ロ) 当日のスケジュールの確認、ハ) 作業前のウォーミングアップ、を行っている。体調がすぐれない場合は必要に応じて相談を行い、作業内容等スケジュール変更や目標の変更を適宜行う。ベストでない体調で一日をどのように過ごすかを試行する機会であり、ストレスや疲労のマネジメントについて考える機会でもある。ウォーミングアップでは、体を動かすウォーミングアップや注意力や記憶力を必要とする簡易な作業を行い、訓練課題実施前の準備としている。注意力や記憶力を必要とする作業を行う場合は、その作業の目的を伝えることで意欲の喚起や通常の作業場面で行っている補完手段の活用につながる場合もある。

##### ○帰りのミーティング

帰りのミーティングでは、イ) 感想の発表、ロ) 翌日のスケジュール確認、を行っている。感想の発表場面では、ミスの内容や原因、対応策について発言できるよう、進行役が促すことが重要である。また、他の利用者からアドバイスを得られるよう、同様に他の利用者の発言を

促すことが大切となる。

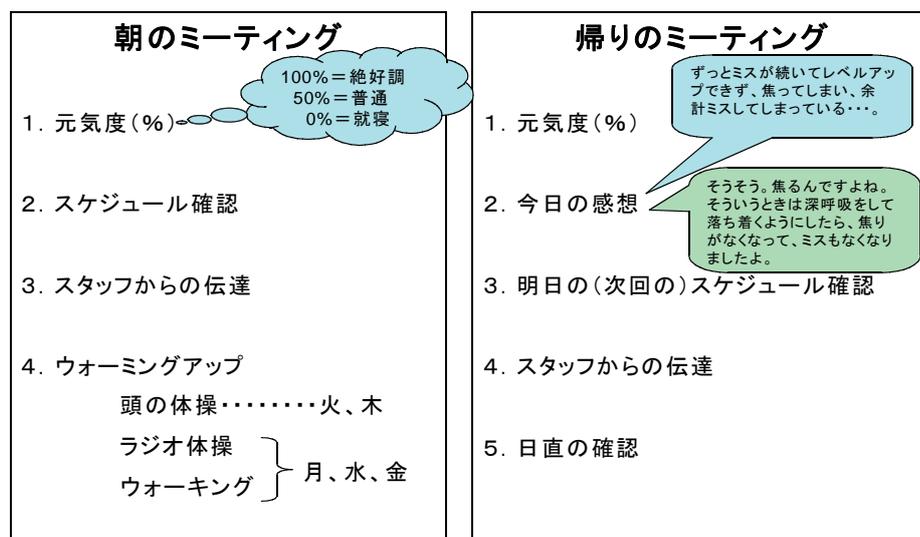


図8 ミーティングの内容

認知障害を有し自己認識しにくい高次脳機能障害者にとって、グループワークにおいて同じ障害を有したピアモデルからの発言を聞くことは、自己の障害について客観的に捉える機会となり、補完手段の受け入れについても抵抗感を薄める効果があると考えられる。なお、当プログラムでは、気分障害を有する別のプログラムの利用者との合同グループワークを試行的に実施している。これは、自己の障害が職業生活においてどのような影響を与えるのか、どのように対応すると良いのか等を考えるためのグループワークの場合、メンバー構成を高次脳機能障害者に限定することなく、認知障害をターゲットとし、気分障害や統合失調症のメンバーと合同で行うことによる効果を探るための取り組みでもある。

#### ⑤トピックス・ホワイトボードの活用

当プログラムでは、個別相談、グループワークの各場面において、ホワイトボードを積極的に活用するようにしているが、それは以下の効果を期待している。

##### イ) 記憶に障害のある利用者の場合

記憶に障害がある利用者との相談では、相談中に同じ会話のやりとりが繰り返される場合があるが、ホワイトボード上に相談経過を視覚的に示すことにより、利用者は、自分の記憶を頼らず、相談経過を踏まえながら、考えを積み上げていくことができる。

##### ロ) 注意に障害のある利用者の場合

注意障害の影響により、話の論点がぶれる場合があるが、相談のポイントを示すことにより、論点を意識して意見を言うことができる。

##### ハ) 遂行機能に障害のある利用者の場合

障害の影響により、話が拡散していく傾向があることに対し、論点の焦点付けを行うことにより、まとまりのある意思表示が可能となる。

## ニ)感情統制に障害のある利用者の場合

ホワイトボード上に、利用者の言動とその影響等を、機能分析の手法を活用して記入することにより、利用者が冷静に自己を振り返るきっかけを作ることができると共に、ホワイトボードに視線が集中されることにより、相談者と対立的な位置関係を回避することにもつながり、冷静に相談を進める環境を構築することができる。

さらに、記入した内容を電子データ化やプリントアウトできるホワイトボードの場合、事後に利用者に対してペーパーにしてフィードバックし、メモリーノートに保存することも可能である。

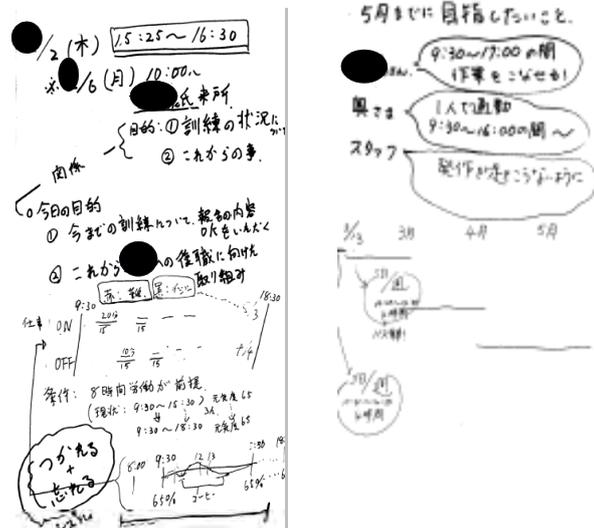


図7 個別相談でのホワイトボードの活用

## ハ. 作業課題(各障害の作業遂行における影響とその補完手段の事例)

ここでは、作業場面での具体的な障害の現れ方と効果的であったと考えられる補完手段の活用の実際について事例を紹介する。なお、基本的な作業課題はワークサンプル(幕張版)(以下「MWS」という。)を実施している。MWSの実施方法、アプローチ方法等については、研究報告書NO.57を参考に行った。

### ①記憶障害／注意障害

<テーマ> 補完手段を使いこなす

<属性> 40歳代、男性。

<障害状況>

脳腫瘍により受障。高次脳機能障害としては記憶障害・軽度の注意障害・遂行機能障害がみられる。

<作業遂行時の状況>

聴覚課題及び視覚課題のいずれも、即時記憶に障害が見られたため、口頭による指示及び指示書による解説だけでは、新しく慣れない作業課題を正確に遂行することが難しかった。既製の手順書には、「見直す」といった一般的な表現及びタイミングで確認作

業の工程が含まれているが、平易な作業工程であるとの本人の認識から、手順書を確認することなく、見直し確認の不足から注意障害によるミスが発生していた。

注意障害に対する補完手段の構築と、補完手段を忘れずに使いこなすための工夫が必要であった。

<補完手段>

注意障害によるミスを防ぐ目的で具体的な見直し方法を検討し、作業工程そのものを変更した。確認作業の工程を段階的に設定し、自身でダブルチェックできるようにした工程を手順書として作成し、作業開始時には毎回音読することで作業手順を抜かすことなく正確性が向上した。

## ②遂行機能障害

<テーマ> 時間に合わせた作業準備について

<属性> 30歳代、男性。

<障害状況>

脳腫瘍により受障。右片麻痺及び高次脳機能障害としては、記憶・注意・遂行機能障害が見られる。

<作業遂行時の状況>

遂行機能障害が作業に大きく影響することはなかったが、作業開始時間までに作業準備を終えることや、作業終了後のミーティングに間に合うように作業を終えること、トイレへの往復に必要な時間を考えて休憩時間を決める、等の計画的な行動を苦手としていた。作業準備に関しては、本人が自信を持って準備できたという場合でも、作業開始後に不足に気づき、その都度準備するため作業に時間がかかっていた。

準備に不足が生じた原因として、記憶障害も影響していると思われるが、本人は作業手順を十分理解しており手順書を見ずに作業を行える状況にあったことから、遂行機能の障害と考えられる。

<補完手段>

補完手段・行動を尋ねると手順の一つとして準備する物のリストを組み込むことを本人が考え実行したところ、午前・午後の作業開始時間までに準備を整えることができた。

## ③失語症

<テーマ> 電子辞書、XPリーダーの活用等について

<利用者の属性> 30歳代、男性

<障害状況>

脳出血により受障。右同名半盲及び高次脳機能障害としては記憶・注意障害、失語症がみられた。会話は概ね良好であるが、読み・書きは不十分であるためプログラム受講前より電子辞書を活用していた。

<作業遂行時の状況>

文字の記入・PCでの入力作業において、正確な読み取り、記入・入力は注意深く見直すことにより最終的な作業の仕上がりとしてミスはなかった。但し、自分が行った作業に自信を持ちにくいことや、作業に時間がかかること、そのために疲労が蓄積され、文字の書き誤りなどに繋がりやすい状況があった。

<補完手段>

音としての文字の判別は可能であること等から、まずは読み上げを行った。さらに、「平仮名・片仮名・ローマ字表記の50音表」「パソコンの音声読み上げソフト(XPリーダー)」を使用することで、効率的に正確な作業を行えるようになった。これらの補完手段を複合的に活用し、作業ミスの減少、作業時間の短縮、疲労の低減となり、作業への自信に繋がったと考える。

<具体的な補完手段>

- ①文字・数字の読み上げ
- ②電子辞書
- ③平仮名・片仮名・ローマ字表記の50音表
- ④PCの音声読み上げソフト(XPリーダー)
- ⑤ビジュアルマニュアル

## 二. 集団作業課題について

### ①集団作業課題設置の目的

準備訓練コースの作業課題における特徴として、今年度は、より実際の職場で発生する状況への対応力等を確認し、必要に応じて対処方法を探すために、集団での作業場面を設定している。場面設定の目的は、以下の通りである。

イ)「急ぎの仕事(納期)」

ロ)「電話対応」

ハ)「作業途中での割り込み」

ニ)「ハウレンソウ」

ホ)「補完手段等の応用的活用」等

具体的な作業内容としては、仮想の会社2社(ないし3社)を設置し、「物品の注文」「受注」「ピッキング」「発送」「納品」を各利用者が一人ずつ担当した。作業内容には電話対応や納期のある物を設定した。

### ②実施結果

それまで実施してきたトータルパッケージ中心の個別作業から、集団作業に移行す

る際には、これまでの作業課題で身につけた補完手段が、他の場面や他の作業課題でも活用できるよう支援する必要がある。多くの利用者が、それぞれ担当した基本的な作業については、それまでに身につけた補完手段を活用することで概ね正確な作業は可能であった。しかしながら、納期が設定されている場合に納期の早い作業から取組むことや、後回しにした作業を途中から始める等の課題設定を行うと、大なり小なりの混乱が見られる。これは遂行機能や記憶の障害が影響しているものと思われるが、納期のプレッシャーや他の利用者に自分の仕事が引き継がれることへのプレッシャー、作業中に求められるコミュニケーション、これらに伴って優先順位付けなどが発生し、落ち着いた作業がしにくい状況等が、それらの障害をより顕在化したのではないかと考える。

また、電話対応では、日付や時間の言い誤りや要件を伝えることの難しい状況がみられた。補完手段としては、日付や数字は何度か確認することや、時計の文字盤を見て話す、要件は事前にメモ書きしておく等の手段を獲得する機会となった。

## (2) 個別相談・グループワーク・作業課題を有機的に活用し、障害受容を図った事例

本事例は、当プログラムの受講前は受障に対して否定的であった利用者がプログラムの受講を通じ、障害受容を深めた事例である。この利用者は、イ)グループワークにおいては、他の利用者の障害に対する捉え方や、作業における補完手段等についての情報提供を得、ロ)作業課題においては、作業ミスについてのリアルフィードバックを受け作業ミスの原因の特定や軽減に焦点を絞った振り返りを行い、補完手段の有効性を認識し、ハ)個別相談においては、作業やグループワークでの出来事を振り返ることで内省を深める機会を得ること等により、障害の受容に至ったと考える。その障害認知の過程については、前述の図1「リハビリテーション後の改善について階層的で重なり合う臨床的指標」に沿って整理すると、利用者がプログラムを通じてどのように障害受容に至ったのかがわかりやすいので、その指標に沿って説明する。(詳細は、巻末資料として50ページを参照。)

<属性> 30歳代、男性。

<障害状況>

脳挫傷により受障。右目の視野欠損、右目全方向への運動麻痺、顔面麻痺。高次脳機能障害としては、注意・記憶・意欲面で障害が認められる。

~~~~~以下、週ごとに変化する本人の障害認知の状況(本人の発言から)~~~~~

<受講前:「障害がないことを確認したい」>

開講式で全体に自己紹介を行う時やプログラム開始直後の個別相談で「自分に障害がないことをこのプログラムで確認したい」と述べる。

#### <1週目:「障害あるのかなあ?気のせいと思いたい。」>

基礎評価期として、MWS簡易版やウィスコンシン・カード・ソーティングテスト、高次脳機能検査などを実施し、現在の作業遂行力を見ることになった。この期間では「作業に慣れていない」ことをミスの理由にする傾向が見られたが、それだけでは説明がつかないことに徐々に気付いていく。健康面では、体温がやや高めな状態が続く。

#### <2週目～3週目:「障害があるらしいが認めたくない。」>

##### ◆個別相談

気力ではカバーしきれないミスがあり障害の存在をみとめる発言があるが、受け止めきれない状況であり、補完手段の導入などは心の整理を終えてからでないとできない」と述べる。また、翌週の個別相談では、「障害はあるんだと思う」と発言はみられるが、実際の作業ミスと関係づけることはできない。

##### ◆作業

補完手段についてスタッフが説明するも受け入れずミスが続く。ミスの原因は自分以外のことに求める。休憩を取ることにしても抵抗が強く、休憩を取らないことが多い。さらに、睡眠不足や障害があるかもしれないという悲嘆から、疲労が大きくなり、さらにミスが出やすい状況となった。

##### ◆グループワーク

高次脳機能障害についてのグループワークでは、利用者がそれぞれの体験や感じていることを発表し共有を図る中で、ある利用者の記憶障害の現れ方について「障害があると分かっているのとそうでない場合とでは、相手の受け取り方が大きく異なるだろう」と述べる。自身の障害については「作業の中で障害については見えてきた」と述べるにとどまる。

次のグループワークでは、疲労が注意や記憶に及ぼす影響を図を用いて説明するが、十分理解しきれず、高次脳機能障害を受障すると全ての部分に障害の影響が出ると捉え悲嘆が増す。

#### <4週目:「・・・悲壮感・・・」>

##### ◆個別相談

「これまで気合いで乗り越えてきたことができなくなり、それが障害なんだ」「ミスの原因

は障害であり、正確な作業を行う手だてではない」という。ミスなくできた時を思い出すことで「時間をかければ正確にできる、補完手段を取り入れたらミスは防げる」けれど「そういうやり方はしたくない」と言う。

◆作業

「今は頑張ろうと思えない。これは自分自身の問題だがこれについて話すこと自体が疲れる。気力がない。」「こんなミスをしていたらスピードなんて言ってもらえない。まずは正確にできないと・・・。」こういった状況であっても作業を行うことを本人は選択。作業中にやる気がでないことを漏らす、スタッフのフォローもあり、休憩を取りながら作業を続けることができた。

◆グループワーク

疲労についてのグループワークを行った際、疲労については「精神疲労として注意・集中・眠気」を挙げる。「作業中に疲労を感じることはないが、結果をみるとミスがあり、それは体力がないから疲れやすくなっているため。体力をつけたい。」と発表。

〈 5週目～8週目：「障害を認めた上での作業、就職を考える」 〉

◆個別相談

作業の目標について本人は、「正確な作業を行う為の体力向上、集中力の維持」、「ミスなく作業する」、「作業の正確な上でのスピードアップ」を考える。また、それぞれについて対策方法や目標を立てる。また、具体的な就職活動の方法、睡眠不足についての相談を行う。その中で、本人から障害者手帳について質問があった。

◆作業

徐々に補完手段への抵抗が少なくなり自発的に補完手段を取り入れるようになった。また、休憩についても自己管理してもらうことで定期的な休憩を取れるようになった。また、作業ミスが意欲低下に大きく影響することも理解した。但し、スピードへの意識が常にあるためミスなく安定した作業には繋がらず、頑張っているのに結果に繋がらないことがスタッフとの関係の中で苛立ちとなりあらわになった。

◆グループワーク

高次脳機能障害について理解を深めるとともに、就労セミナーとして具体的な就職活動方法についての情報提供と各利用者の意見交換を行うなかで、現在の自分を客観的にみることができるようになっていった。

〈 9週目～12週目：「気持ちのコントロールが課題」 〉

◆個別相談

本人は、「思ったことを言わずにいようと思うが、言わないとストレスになる」と感じている

ことやこれまでの本人の言動を振り返り、よりアサーティブな表現が大切になることを確認する。また、就労セミナーなどで具体的な就職活動について準備を進める中で受障前の職場での人間関係、コミュニケーションの仕方を思い出し、訓練中でのコミュニケーションの仕方を客観的に振り返ることができ、以前の自分ができていたことと合わせて、今の自分は感情のコントロールがしにくい状況にあることを認識できた。

◆作業

作業ミスに対する補完手段の導入や新たなミスの発生に対する理解を深めた。また、ミスなく作業を行うことの難しさを実感。

◆グループワーク

SSTにおいて本人の提供した話題について内容を深める。受障前の職場での出来事について、色々な視点から職場の上司を表現。

〈 訓練の感想 〉

訓練開始当初から終了に至るまでの障害についての捉え方や今後の自分の課題について客観的に表現。「補完手段を用いることで社会や会社に適応していけば決して自分は障害者ではない」、「訓練をとおして考えたことや習得したことを整理して、就職を目指したい」と考えを表現する。

障害受容の過程としては、前進・後退を繰り返しながら少しずつステップを踏んでいく。そのため、一度障害受容に至ったかにも見えても、安定するとは限らず、環境の変化等により、再度受容の過程を踏むことになる。

### 3. プログラムから職場へ(利用者支援から事業主支援へ)

当プログラムでは、障害に対する理解・受容の促進と共に、作業課題における補完手段や対処行動の獲得を当面の目標としている。そして、それらの手段及び行動を、就職後あるいは職場復帰後の職業場面においても継続的に活用できることが最終的な目標となる。しかし、ここで利用者及び支援者が困難に感じることは、プログラムで獲得された手段及び行動が、他の場面や他の指示者、または他の課題、という異なる条件下では現れにくく、長続きしないということである。当プログラムでは、利用者がプログラム内で獲得した補完手段や対処行動という効果を実際の職業場面においても活用し持続させるために、「般化」という視点に着目して取り組んでいる。

#### (1) 般化について

行動分析の考えでは、ある特別な訓練場面で獲得された行動をその場面以外においても持続させるためには、そのための手続きが必要であるという基本的な考え方がある。支援プログラムにおいても、作業課題が変わるとそれまで使っていた補完手段が活用できなくなる、支援者が変わるとそれまでできていた作業ができなくなる、という状況はよく観察され、般化の手続の重要性を感じる。

このような状態が実際の就労場面で生じることを防ぐために支援者が意識すべきこととして、勿田は、表4にあげる般化の種類を指摘している(勿田, 2004)<sup>22)</sup>。

表4 般化の種類

| 般化の種類  | 内 容                          |
|--------|------------------------------|
| 場面間般化  | 同じ指示内容を、同じ指示者が異なる場面で指示を出す場合  |
| 課題間般化  | 同じ指示者が、一定の場面で異なる内容の指示を出す場合   |
| 指示者間般化 | 同じ指示内容を、一定の場面で異なる指示者が指示を出す場合 |

そして勿田は、実際の就労場面では、般化を必要とする場面が複数、同時に生じる場合が多いことから、支援者は般化を阻害する要因を分析し、解決に向けて段階的にアプローチすることの必要性を指摘している。

当プログラムでは、それら阻害要因の分析及び解決方法の検討をスムーズにすることを目的に、イ) 支援過程に般化の状況確認を目的とした場面設定を行う、ロ) 利用者の主体的な参加を得ながら就労場面において支援者間の情報の共有を図る、という2点に取り組んでいる。

## (2) 当プログラムにおける般化の取り組みについて

当プログラムにおける般化促進の取り組みの一つは、準備訓練プログラムの支援過程において構造化された環境からより職場に近い環境に移った際に、それまでに獲得した補完手段や対処行動を応用的に活用可能であるかを確認する集団作業の場面を設定したことである。作業課題の内容は、前述の通りで（P.22）、般化の種類としては、場面と課題が異なる状況下での実施となる。また、実際の職場で発生する状況として、納期への対応や集団作業での他者とのやりとりの発生、イレギュラーな事態への対応が段階的に求められるように設定している。ここで利用者が体験する様々な混乱とその解決方法は、実際の就労場面における補完手段を検討するために有効な体験であると考えられる。

一方、復帰プログラムにおいては、支援過程の中で復帰予定職務の絞り込み、調整を事業所と行うため、職場での作業場面及び作業課題がある程度明確になっており、利用者が般化を求められる場面の推測が可能である。しかし、利用者の障害状況及び事業所側が用意する職務とのマッチングに応じて、般化に必要な手続は異なる。復帰プログラムでは可能な限り忠実に復職後の職務を再現することに重きをおいた「模擬講習」と、復帰後の職務を課題分析し、その職務を行う上で必要なスキルを確実に遂行するための「要素トレーニング」という2つの支援方法があり、両者をどのように組み合わせるかを見極め、復職後の職務遂行がスムーズとなるような般化の手続を検討している。

次に、本人を主体とした支援者間の情報共有である。これまでもケース会議等に利用者本人が参加することはあったものの、必ずしも本人主体ではない場合が多かった。しかし、高次脳機能障害者が実際の就労場面において自ら体得した補完手段を活用するためには、利用者本人の障害に対する理解だけでなく、自ら周囲に対してアピールできるようになることが重要と考え、利用者自身が獲得した補完手段を支援者に伝える場面を設定した。

## (3) 般化支援の実際

### イ. 般化のための主な支援項目

プログラムから実際の職場へ移行する段階で利用者に期待される作業遂行上の般化の内容は、利用者の障害状況や復職後の予定職務及び希望職種により様々である。しかし、プログラムの目的は、利用者自身が自らの障害に気づき、理解する中で補完手段や対処行動の獲得を目指すことにある。したがって、支援のポイントは障害を認知する過程や高次脳機能障害が与える影響に配慮し、アプローチの優先順位と時系列を把握することであり、当プログラムでは、般化のための主な支援項目を表5のように整理した。

表5 般化のための主な支援項目およびポイント

| 主な支援項目            | 般化のためのポイント |
|-------------------|------------|
| メモリーノートの使用        | キーワード など   |
| 作業遂行上の<br>補完手段の活用 | 指示書など      |
| 休憩の取り方            | 目安・アラームなど  |

#### ロ. 地域障害者職業センター等関係機関スタッフとの情報共有

これまでの準備訓練のプログラムにおいても、修了見込みの段階で、その後の就職活動の援助及び適応指導等がスムーズに実施されることを目的として、地域障害者職業センター（以下「地域センター」という。）のカウンセラー及び該当する公共職業安定所職員の参加のもと、就職準備連絡会議（以下「連絡会議」という。）を開催してきた。施設内での支援から就労場面での支援への移行時に各担当者間の情報共有が重要であることには変わりないが、高次脳機能障害者のプログラムにおいてはこの点がさらに強調されるべきだと考えている。それは、実際の就労場面での支援者は地域センターのジョブコーチである場合が多く、いずれ「場面間般化」及び「課題間般化」の支援を託すこととなるからである。そこで、プログラムでは利用者に関する情報共有の方針として、①連絡会議は、利用者の参加を基本とすること（可能な限り、家族も参加する）、②利用者の状況に応じて、職業センタースタッフが面接に同行すること（準備訓練プログラム）、の2点に留意することとした。

特に、連絡会議では、地域センター及び関係機関スタッフに対してプログラムにおける取り組み状況やその成果、今後の希望といった内容について、利用者が自ら伝えることを目標に、事前の個別相談では入念に準備を重ねることがポイントとなった。

## 準備訓練実施状況報告<例1>

### 職業準備訓練実施状況報告

\*本資料は、職業準備訓練の実施状況をまとめたものであり、今後ご本人の努力により変化するものです。

障害者職業総合センター職業センター  
担当者 ○○ ○○

障害原因 ⇒ 

|       |      |     |        |      |         |
|-------|------|-----|--------|------|---------|
| 脳血管障害 | 頭部外傷 | 感染症 | 自己免疫疾患 | 中毒疾患 | その他 ( ) |
|-------|------|-----|--------|------|---------|

障害状況 ⇒ 

|     |     |      |      |        |        |        |         |
|-----|-----|------|------|--------|--------|--------|---------|
| 失語症 | 失行症 | 記憶障害 | 注意障害 | 遂行機能障害 | 半側空間無視 | 視覚対象失認 | 行動と情緒障害 |
|-----|-----|------|------|--------|--------|--------|---------|

| 支援事項                                                                          | 所 見<例>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>基礎評価</b><br>①WCST<br>(ウィソツカ・カード・ソートング・テスト)<br>②高次脳機能検査<br>③作業課題            | 主な高次脳機能障害は「失語症」と考えられます。失語症のタイプとしては、「聞く」ことは良好ですが、「話す」「読む」「書く」の順番に難しくなるようです。状況としては以下のとおりです。<br>①会話において単語をすぐに思い出せないことがあり、言葉の頭文字を伝えることで思い出しやすいようです。また、6を9と言い誤る等、言葉や数字の書き誤りや言い誤りがあります。ご本人は正確に把握していますが、表出する際に間違えることがあります。<br>②平仮名、片仮名、漢字、アルファベットを書くときやPCで入力する際に思い出せないことがあるため、50音表や電子辞書を活用しています。<br>③平仮名、片仮名、漢字、アルファベットを読むのに時間がかかります。<br>また、失語症の影響から、文字や数字を含む複数のことに一度に注意をむけるには大きなエネルギーが必要となり疲れやすいようです。                                                                                                                                                                                                             |
| <b>職務遂行/作業遂行について</b><br>①疲労・ストレスのマネジメント<br>②スケジュール管理<br>③正確な作業遂行のための補完手段/補完行動 | ■疲労のサイン：「数字の読み誤りが増える」「電卓の打ち誤りが増える」「作業中の声だし確認の声が大きくなる」をご本人は自覚しています。<br>■休憩のタイミング：作業種目によって変わりますが、概ね40分～60分に1回、10分程度の休憩を取ることで、疲労が大きくなりすぎずに作業ができました。<br>■休憩時間の過ごし方：水分補給や散歩などをしてすごしました。<br>当初より積極的にメモリーノートを活用してスケジュール管理及びメモを取っていました。日にちや時間などの数字の記入誤りがあるため、正確な情報を共有するツールとしても活用できました。また、失語症のリハビリとしても文字を書くことへの意欲がみられました。<br>■見直し確認/声だし確認<br>■ポインティング<br>■文字や数字は細かく区切って音読<br>■XPRリーダー（音声読み上げソフト）<br>数字や文字を形から判別するよりも音声で確認する方が疲労なくできるため、PC作業ではXPRリーダーを活用しました。また、電卓を使用する際も、音声読み上げ機能のある電卓を使用することで効率よく作業できると思われます。                                                                                                       |
| <b>障害に解対す</b>                                                                 | 言語療法や日常生活をとおして、失語症の状況は訓練開始前より把握し、日常生活での影響を減らす工夫をしていました。また、受障前後の変化についても的確に把握されていました。訓練においては、実際の作業を行う中でどのように障害が現れるのか、また、その対処方法及び疲労について理解を深め、他者に説明できるようになりました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| <b>就職について</b>                                                                 | 訓練の目的として「できる作業とできない作業を知ること」を挙げていました。実際の作業をとおして、補完手段や休憩を取ることで「どの作業も正確にできる」との結果を得られました。職種については、疲労が少なくスピーディにできるピッキングのような実務的な仕事を希望しています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <b>その他</b>                                                                    | 血圧が高い傾向があるため、毎日2回（朝夕）血圧を測り、ご自身で健康管理をしました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <b>就職に向けて（まとめ）</b>                                                            | ご本人の何事に対しても前向きな取り組みや考え方が、作業遂行力の向上や現実に即した職種の検討などに繋がったと考えられます。また、グループワークや日常の雑談などで発言されるご本人の言葉は他の利用者が自分の障害を理解する手助けとなりました。<br>就労に際しては、訓練で学んだ補完手段や休憩を取りながら職務で応用していただけることと思います。今後、就職し長く就労するために特にポイントとして考えられることは次のとおりです。<br>■「相談する、断る」こと<br>ご自身が感じているよりも会話がスムーズであることや作業の正確性から、職務内容について過度に期待される可能性があります。また、ご自身も「その期待に応えたい、周りに迷惑をかけたくない」という気持ちから頑張りすぎてしまうことが懸念されます。ご自身も「断ることが苦手」と感じていらっしゃるかもしれませんが、仕事の依頼を受けた際は、内容を確認し実行可能かを検討し必要に応じて断ることにチャレンジできると良いでしょう。<br><支援のポイント><br>ご本人の会話のスムーズさや作業の正確性の高さ等から、職務内容及び量がご本人の対応力に比して大きくなりすぎるのが危惧されます。ご本人が上司や同僚と相談し職務内容を検討することが基本となりますが、定期的にご本人に職務遂行状況等について確認し、必要に応じて助言を行うと良いと考えます。 |

## 準備訓練実践状況報告<例2>

### 職業準備訓練実施状況報告

障害者職業総合センター職業センター

\*本資料は、職業準備訓練の実施状況をまとめたものであり、今後ご本人の努力により変化するものです。

担当者 ○○ ○○

障害原因 ⇒ 脳血管障害 頭部外傷 感染症 自己免疫疾患 中毒疾患 その他 ( )

障害状況 ⇒ 失語症 失行症 記憶障害 注意障害 遂行機能障害 半側空間無視 視覚対象失認 行動・情緒障害

|                         | 支援事項                                                           | 所 見<例>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------------|----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基礎<br>評価                | ①WCST<br>(りんごツツ・カード・リーディング・テスト)<br><br>②高次脳機能検査<br><br>③作業課題   | 主な高次脳機能障害として、記憶障害、注意障害が考えられます。また、これらの障害も影響して会話や文章の理解に時間がかかります。視覚的に捉えられる図や写真を使用することで理解をしやすくなります。<br><br>■記憶障害：一日に同じ話を何度もすることがあるなど、出来事や予定を覚えにくいようです。作業においても手順を習得するまでに時間がかかりましたが、一度習得した内容は保持することはできました。なお、関心の高い内容は記憶に残りやすいようです。<br>■注意障害：複数のことを一度に行うことを苦手としています。また、多くの情報から必要なものを抽出することも苦手なようです。こういった状況では、他のことが気になり集中しにくい様子が見られました。<br>■言葉の意味理解：長い説明や回りくどい言い回し、一般的な言葉であっても理解が難しい場合があります。平易な言葉で簡潔に説明することや、図解することで理解をしやすくなります。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 職務<br>遂行 / 作業<br>遂行について | ①疲労・ストレスのマネージメント<br><br>②スケジュール管理<br><br>③正確な作業遂行のための補完手段/補完行動 | これまでに定期的な休憩を取る習慣がなかったこと等から、当初休憩を取ることに抵抗感があり、声かけが必要でした。徐々に休憩の必要性やタイミングについて理解を深め、訓練中盤からは休憩の自己管理をできるようになりました。<br><br>■疲労のサイン：「眠気」「あくび」「目の疲れ」が主な疲労のサインです。<br>■休憩のタイミング：デスクワークでは30分に1回、10分程度の休憩を取りましたが、ピッキングなどの実務課題では60分に1回、5分程度の休憩を取りました。また、作業になれることでその場でのストレッチをするなどの小休憩で疲労回復を図りました。<br>■休憩時間の過ごし方：水分補給やソファで目をつぶる、トイレへ行く等です。<br>■その他：記憶障害の関係で休憩時間の残り時間が気になり休めない状況があったため、キッチンタイマーを使用して時間管理を行いました。その際、休憩時間よりも2分程度短くセッティングして休憩終了前に作業場に戻れるようにしました。<br><br>■メモリーノートを使用してスケジュール管理、出来事の記録をできるようになりました。伝達事項などにキーワードが含まれると自発的に記入ができます。スケジュールは「予定」、to-do listは「○○までに」、重要メモは「重要なこと」が各キーワードです。<br><br>■見直し確認/声だし確認、検算<br>■ポインティング<br>■作業手順書<br>■物の配置<br><br>作業手順書は視覚的に捉えられる図や写真を用いてオリジナルの手順書を作成しました。見本があれば、本人が作成することもできました。また、物の配置が変わると混乱するため、作業時は物の配置を固定しました。                                                       |
| 障害に<br>対して              |                                                                | 「障害があると主治医に言われた」というのが当初の状況でしたが、作業やグループワーク、個別相談をとおして、実際の障害の現れ方とその対処方法について理解を深めることができました。障害について説明を求められた際は、「〇〇障害」という表現ではなく、具体的な現れ方を説明する方がイメージしやすいようです。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 就職に<br>ついて              |                                                                | ご本人は事務的な作業よりも体力を必要とする実務的な作業を希望しています。訓練の様子からも、事務課題よりも実務課題の方が大きな疲労なく安定した作業ができました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| その他                     |                                                                | ■生活面：当初、忘れ物がありましたが、持ち物リストを作成し部屋のドアに貼り付け、出かけ前にチェックすることで、忘れ物がなくなりました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 就職に向けて<br>(まとめ)         |                                                                | 訓練を通じて、障害の影響とその対処法について理解を少しずつ深めてきました。今後、安定した就労を目指すにあたってのポイントは次のとおりです。<br>①メモをとること<br>予定や約束はメモリーノートにメモをとることが有効です。また、定期的なメモを見返すことも忘れずに行いましょう。朝起きたときや、自宅に帰ったときなど、時間を決めておくと忘れにくいです。<br>②作業手順書を使用すること<br>初めての作業では、例示的指示と作業手順書を使うことで理解しやすいようです。特に作業に慣れるまでは作業準備や手順のミスをしやすいため、手順書を十分読み、一項目ずつチェックして作業を取組みましょう。<br>③休憩について<br>疲れる前に休憩しましょう。休憩を取りにくい場合は、その場でストレッチをするなどの工夫ができるといいでしょう。また、必要に応じて上司や障害者職業センターに相談するのもよいでしょう。<br><br><支援のポイント><br>①メモリーノートの活用について<br>メモリーノートへの記入・参照は習慣化されていますが、記入において「キーワード」が必要です。記入して欲しい内容については、「スケジュール管理」欄に示したキーワードを使用して伝えることが必要です。<br>②図や写真を用いた作業指示書の作成について<br>初めての作業では作業イメージを持ちにくく、また、言葉を理解しにくい事などから、図や写真を用いた作業指示書を活用することが有効です。更に作業を行いながら、ご本人がミスしやすい内容等を加筆するなどして、正確に行える作業手順書に改訂することが重要です。<br><br>③コミュニケーションについて<br>できるだけ平易な言葉で簡潔に伝えると理解しやすいようです。また、必要に応じて図解するなど目で見える形にするとよいでしょう。 |

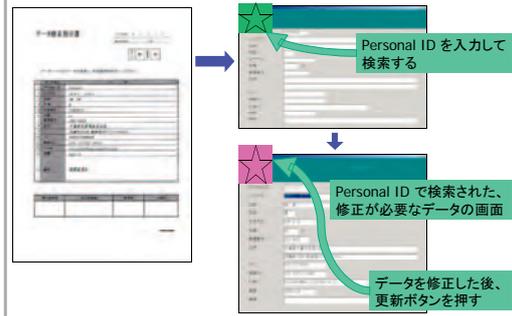


## ミス零訓練の段階について

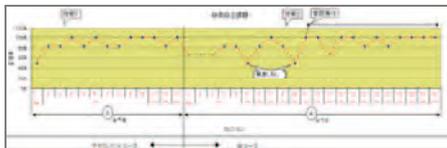
- 1. 単一の作業課題( 検索修正 )での取組み  
PC作業における、  
ミスを撲滅する為に対策(案)を作成済み
- 2. 二種類の作業課題( 検索修正  
物品請求書作成 )での取組み  
事務手作業における、  
ミスを撲滅する為に対策(案)を作成済み

7

## 検索修正課題



## 検索修正課題の成績一覧



9

## 検索修正 PC作業 対策(案)

① 確定が早い(出しチェック)  
② 確定が遅い(出しチェック)は、必ず確認してから入力してチェックする。  
③ 確定が遅い(出しチェック)は、必ず確認してから入力してチェックする。  
④ 入力した確定項目に必ずチェックを入れる。  
⑤ 入力した確定項目に必ずチェックを入れる。

10

## 検索修正課題の5つのレベル

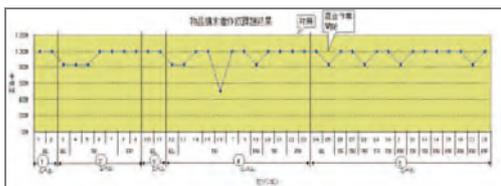
| level | 修正箇所 | 前のlevelに付加されていく修正内容                  |
|-------|------|--------------------------------------|
| 1     | 2    | ふりがな(ひらがな)、郵便番号(数)                   |
| 2     | 4    | 生年月日(アルファベット)、Tel(数) + level 1       |
| 3     | 6    | 名前(漢字)、携帯Tel(数) + level 2            |
| 4     | 8    | 住所1(全て)、住所2(全て) + level 3            |
| 5     | 10   | E-Mail(アルファベット、数)、備考(空欄入力) + level 4 |

11

## 物品請求書作成課題



## 物品請求書作成課題の成績一覧



13

## 物品請求書作成作業 対策(案)

① 確定が早い(出しチェック)  
② 確定が遅い(出しチェック)は、必ず確認してから入力してチェックする。  
③ 確定が遅い(出しチェック)は、必ず確認してから入力してチェックする。  
④ 入力した確定項目に必ずチェックを入れる。  
⑤ 入力した確定項目に必ずチェックを入れる。

14

### 物品請求書作成課題の5つのレベル

レベル1:品名に対応する商品は1つだけ

レベル2:品名と1種別から商品を選択

レベル3:品名と2種別から商品を選択、数量1桁

レベル4:品名と2種別から商品を選択、数量2桁

レベル5:品名と3種別から商品を選択、数量2桁

15

### プログラムを振り返って

- トライアル期間があれば、対策(案)を作成することができる  
(各作業課題とも、自分自身で作成した)
- 同じ要素で行われる作業については、素早く対策(案)を作成できる  
(検索修正課題ではながら作業の中で作成した為に10日要したが、物品請求書作成課題では応用して3~4日で作成可能であった)

16

### 私の希望 その①

- 16年勤務した〇〇会社で働きたい
- 世界的にも業界をリードしている〇〇会社で働きたい
- 自由に仕事の目標を定めて働ける社風(目標管理)の中で働きたい
- 先進のテクノロジーを考えつつ、世の中の水準以上に努力できる環境で働きたい

17

### 私の希望 その②(勤務地)

- 本社事業所
- ◇◇事業所
- ◆◆事業所

18

### 私の希望 その③(職務内容)

- 郵便物等の仕分け配達作業
- パソコンによるデータ入力作業  
(WORD・EXCEL使用可)
- 定型作業  
(工場・ライン作業)
- 定型業務  
(総務的な部分)

19

### 私からのお願い

- トライアル期間の設定をお願いいたします。
- 私の障害について同僚の方を含め、知っていただける様な機会を作って下さい。
- 作業で間違い(ミス)が生じた場合はフォローせずに私自身に伝えて下さい。

20

#### (4) 般化支援のポイント

その複雑で重層的な障害特性から、高次脳障害者に対するアプローチは、統制された環境から始める必要があるが、実際の就労場面においては、時間を遵守し、定められた方法で、自主的に、持続して仕事に取り組み、結果を点検し、上司へ報告する、という基本的な習慣を身につけることが求められる。これは、これまでも準備訓練の目的としてきたセルフマネジメント力の向上への取り組みと変わりはなく、支援者はまず利用者自身が般化できる力を高める支援を行うことが重要と考える。そのためには、利用者の障害に対する理解を促すことだけでなく、意欲をもって取り組むことができるよう希望職種に近い作業課題の設定や復職先へどのようにアピールすることが良いのか見通しをもてる個別相談の実施

等、就職や復職とのつながりを実感できるプログラム設定が大切だと考える。

また、プログラムの後半では、利用者自身が自ら解決し、アピールすることが難しい補完手段は何であるかを見極め、支援者が般化支援する内容を明確にすることが必要である。そして支援者が交替する際には、般化の種類を意識し、情報を共有することが重要である。

---

## Ⅲ. 事業主支援編

---

### 1. 職場復帰支援に係る事業主支援

---

職業センターにおける高次脳機能障害者の職場復帰支援の実際については、これまでもいくつかの実践報告書を通し、事業所との調整や医療機関との連携、事業主が職場復帰を考えるにあたってのスタンス等について報告してきた。当節では、支援期間中における事業所との職務内容の決定に向けた調整の概要について報告する。

復帰プログラムにおける事業主支援の内容については、休職する前の職位や職務、職場環境、事業所の復帰に関係する制度の整理状況、また、事業所に対する利用者のこれまでの貢献度等、様々な要素が影響を与える。さらに利用者自身の復帰後の職業生活に対する要望が入ってくるため、利用者個々の障害の程度や能力等のみには依存しない。そのため、職場復帰支援は、利用者支援と平行して、職場環境へのアプローチが必要となってくる。事業所に対しては、以下に述べるような情報の収集及び提供を行いながら、利用者の職場再適応が可能となるような職場環境について人的・物理的な構造化を図り、利用者事業所双方の負荷をできる限り軽減するように取り組むことが必要である。

#### (1) 環境へのアプローチ

##### イ. 人的環境へのアプローチ

人的環境に対するアプローチは、職場内でのキーパーソンを養成することにある。職場復帰におけるキーパーソンは、受障前の職場の上司、人事担当者、復帰後の職場における作業指導担当者等が考えられる。これまでの支援経験から、支援段階によってキーパーソンが変化する場合があります、支援者はそれぞれのキーパーソンの事業所内における立場や役割に留意しながら、調整を進める必要がある。

##### ① 復帰後の職場・職務検討の段階

復帰にあたって配置部署の見直しが想定される場合には、人事担当者が、事業所の組織を俯瞰して配置部署を検討し、様々な職場の担当者と利用者の配属について相談する必要があることから、人事担当者が事業所内で調整しやすくなるような支援が必要となってくる。当プログラムでは、利用者自身による事業所への復帰のプレゼンテーションを行っているが、これまでの支援では、プレゼンテーション時に事業所に提示した資料が配置部署の検討事業所内での調整に役立った例もある。

##### ② 職務の決定から事業所内支援の段階

職場及び職務が決定すると、次は担当職務の作業指示者がキーパーソンとなる。安定した支援環境を構築するためには、できる限り支援者が特定されていることが望ましいため、このようにキーパーソンが変更になる際は、職業センターの支援者を固定して橋渡しを行う

ことが望ましい。

## ロ. 物理的環境へのアプローチ

物理的環境については、職場内を利用者の認知状況を踏まえて可能な範囲で整えていくこととなる。一日の流れや作業の手順・進捗状況などの情報を、できれば視覚的な情報に置き換え、利用者がすぐに参照できるような形で提示されていることが望ましい。

## (2) 復帰後の職務決定

復帰プログラムにおいては、プログラム開始前の事業所との調整段階で、復帰後の職場や職務について相談を行い、具体的な職務内容を特定した上でプログラムに入ることが望ましく、このことにより復帰後の職務を想定したプログラムの展開が可能となる。また、これにより利用者のプログラムに対するモチベーションの高まりも期待できると考える。しかし、実際には、事前の調整段階において事業所側は、(イ)利用者の受障状況についての把握が十分ではなく、復帰についての具体的なイメージが持っていない、(ロ)元職場・元職務復帰が事業所の原則であり、利用者の障害状況とのマッチングについての理解が十分ではない、(ハ)利用者の状況はある程度把握しているが、それにマッチする職務が見い出せていない、等の状況にあることが多い。それでも利用者本人が復帰プログラムの利用を希望し、かつ事業所側が職場復帰を前提に同意している場合には、プログラムを通じて利用者の障害状況を把握し、それに応じた職務の提案を職業センターが行うことを盛り込んだプログラムを実施する形で着手することとなる。その場合、プログラム受講による本人の障害認知や対処行動・補完手段の獲得状況等について事業所に伝えながら、対応可能な職務内容について事業所内の職務の中から洗い出す作業を平行して行う事になる。図8は、その調整過程をフローチャートで示している。

復帰後の職務は、(イ)元職場における元職務、(ロ)元職場における他職務、(ハ)他の職場における既存職務、(ニ)複数の職場から対応可能職務を抽出し、一人分の職務として創出、の4種に大別される。職務決定までの流れは以下の通りである。

## イ. 各種情報収集及び情報提供

### ① 事業所の概要及び職務についての情報収集

復帰プログラムでは、利用の打診を受けた段階から、復帰後の担当職務の想定や利用者が自律して働くことができるための職場環境の調整を行うために、事業所との調整を開始する。調整では、利用者の復帰についての事業所側の考えを確認しながら、以下の情報について入手する必要がある。

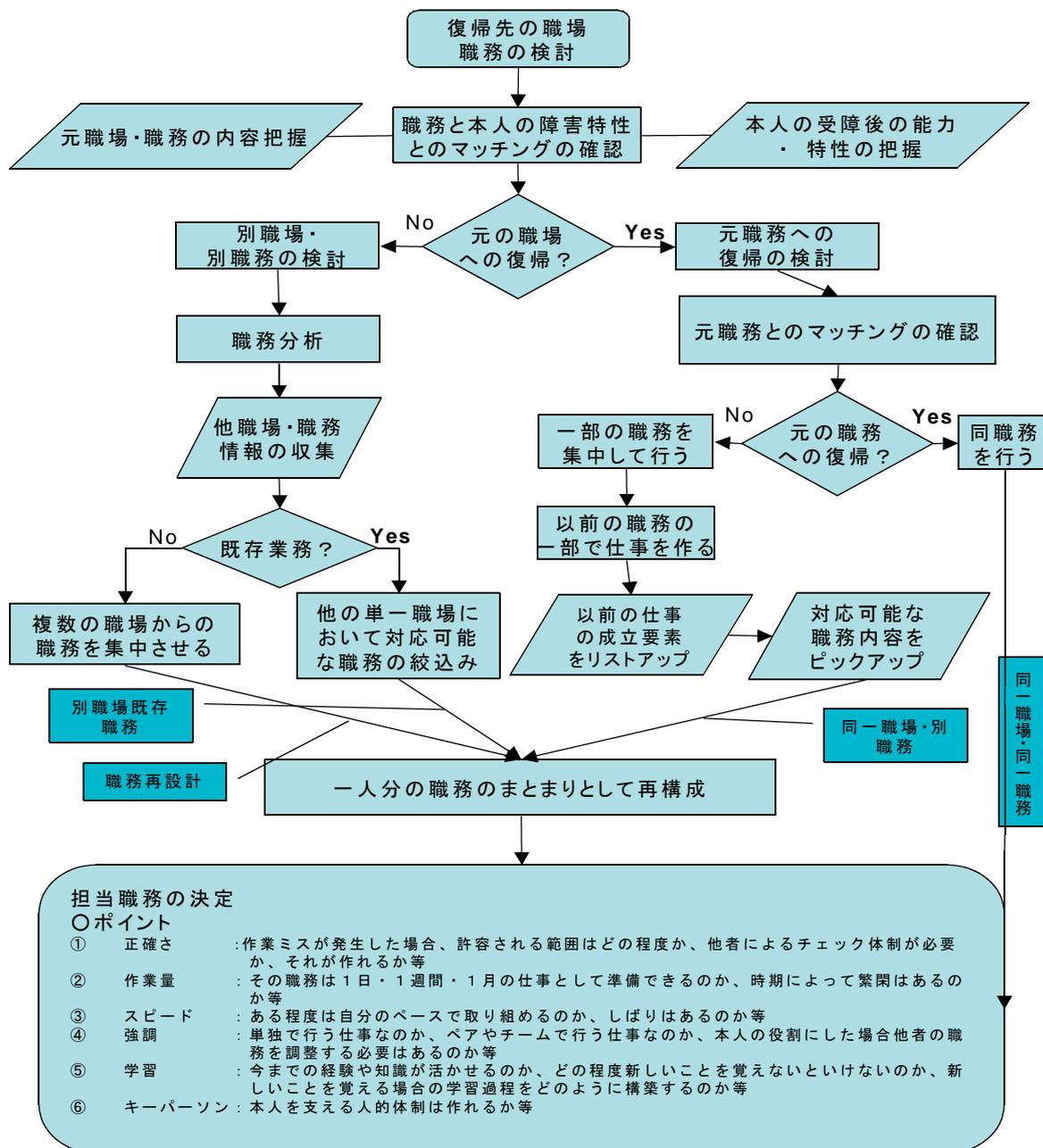


図8 復帰職務の決定フロー

イ) 事業所に関する情報

- ・事業所全体～利用者の所属する組織の業務内容及び組織構成について
- ・長期病休者の就業規則上の取り扱いや職場復帰する際に利用することのできる事業所内制度(事業所内産業保健スタッフの活用を含む)について
- ・職場復帰の窓口担当者及び人事担当部署の関わり方について
- ・障害者雇用の実績や考え方について
- ・職業センターのスタッフ等、利用者の職場復帰支援スタッフの事業所内への立ち入りの可否について

#### ロ)利用者に関する情報

- ・受障前の職位や担当職務について
- ・受障前の労働条件について
- ・在職年数やこれまでの職務実績について
- ・医療情報について
- ・職場復帰に向けた事業所とのこれまでの調整過程について

これらの情報収集を行う際、事業所によっては情報漏洩防止のために社外の人間の事業所への立ち入りについて認めず、情報収集が進まない場合がある。このような場合に職業センターでは、利用者の職場復帰に係る範囲内の情報収集に留めるとともに、事業所側には、復帰にあたり利用者が働きやすい職場環境を構築するためである旨の理解を求めている。そのために、事業所側と情報セキュリティに関する覚え書きを締結する事例もある。

#### ②利用者情報の事業所への提供

職業センターで把握された利用者に関する以下の情報については、復帰後の職務や職場環境の構築を行うために適宜利用者やその家族の同意を得た上で、事業所側に提供している。

#### イ)障害に関する情報

- ・高次脳機能障害の状況について
- ・職務や作業の遂行における障害の現れ方について
- ・対処方法や補完手段について
- ・利用者の障害に対する考え方について
- ・雇用管理上の配慮事項について

#### ロ)利用者に関する情報

- ・医療情報について
- ・復帰についての本人・家族の考え方について
- ・プログラムの進捗状況及びそのことに対する利用者本人の捉え方について

#### ハ)職場復帰に向けた支援環境に関する情報

- ・プログラムの目的・概要、支援計画について
- ・職業センター内での支援からジョブコーチを活用した事業所内支援、フォローアップに至るまでの各支援段階における支援体制について

これらは、利用者の障害に対する捉え方や職場復帰についての考え方、また、本人の作業遂行能力等、利用者にとって不利な内容として事業所側に捉えられる可能性のある情報が含まれるため、情報を提供する目的や内容、伝え方等について、十分に利用者や家族と

調整する必要がある。当プログラムでは、できる限り本人に、自ら事業所に対して説明をするよう促しており、障害状況によって本人自身が表現することが困難な場合は、文章に整理したうえで伝えることとしている。本人や家族の了解、同意の得られていない情報については、事業所側への提供は行わないことは言うまでもない。

## ロ. 復帰先職場及び職務の調整の実際

長期病休者の職場復帰については、まず元職場復帰が前提というのが一般的であるが、認知障害のある高次脳機能障害者の場合、元職務への復帰が困難なことが多い。この場合、他の職場や職務への配置転換の可否について事業所と調整を行う必要がある。図8「復帰職務の決定フロー」は、復職後の職務を決定するに際して検討が必要な内容やその過程について、事業所側に理解を求めるために利用している。

## ハ. 復帰先職場・職務調整の事例

図9はプログラム開始後に利用者への支援と平行して、復帰先の職場と職務内容の調整を行った事例の調整過程を図にしたものである。この事例では、休職期間が残り3ヶ月弱の段階で復帰プログラムを開始した。本事例の利用者は、障害認知が困難であり、復帰について行うべき事についての見通しを持つことが難しく、また、受障前に行っていた職務への復帰について疑問を持つことがほとんど無い状況であった。事業所側も、産業保健スタッフを含めて高次脳機能障害についての知識、理解が乏しく、元職務への復帰が前提というスタンスであった。利用者の主治医が職業センターのプログラムに詳しく、復帰にあたってのプログラム利用を勧めたことが、利用の契機となっている。この利用者の職場・職務復帰については、以下の調整過程を辿ることとなった。

### ①休職期間満了3ヶ月前

トータルパッケージの検索修正課題を中心に作業体験をしたところ、ミスが多発した。ミスの原因については、注意の障害が影響していること、ミスを軽減するための補完手段が必要であることについては、本人なりの理解を得て、ミス軽減のための方策について手応えを感じる段階には至ってはいたが、十分な改善を図ることができないまま体験期間を終了することとなり、その結果報告を事業所に対して行った。その際の事業所の反応は、「復帰にあたっては、元職場への復帰が前提であり、元職場の職務内容を考えると、調整・交渉・企画・運営の要素が盛り込まれた職務について8時間の勤務が可能とならないと復帰は困難である」、「それ以外の職務を考えるのであれば、体験での作業結果のようなミスの発生状況では、どの職場でも通用しない」という厳しいものであった。しかし、後者の発言には、人事担当者の立場として、元の職場以外での職務を検討するためには、他の職場担当者に対して利用者の障害状況や配慮事項等について説明することが求められるが、利用者の現状では、他の職場担当者を納得させられる状況ではないということを言外に含んでいると感じられた。

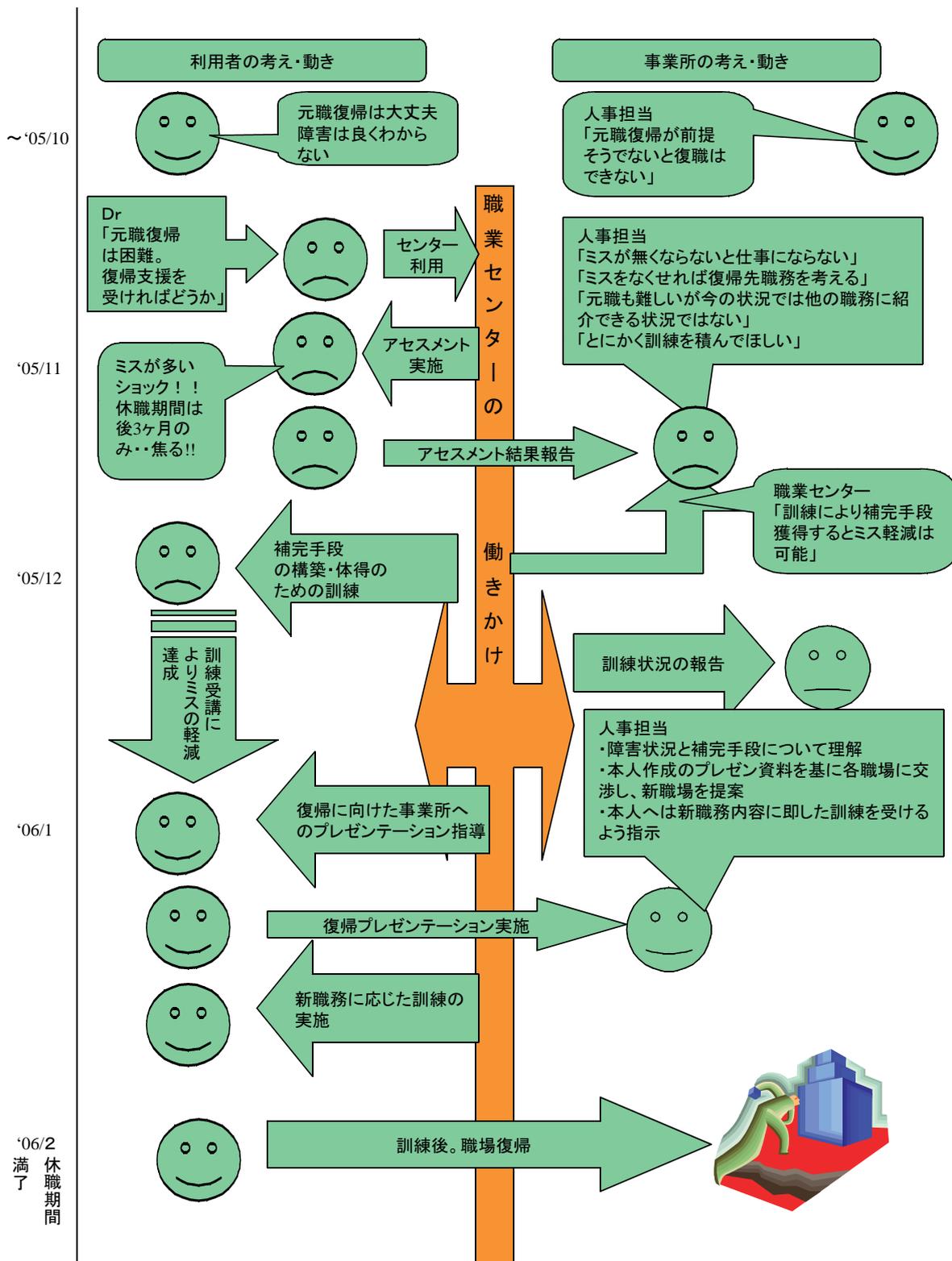


図9 復帰後の職務内容についての調整過程

そこで、人事担当者に対して、プログラムを体験的利用から本格利用に切り替えてプログラム目標を課題でのミス軽減するための対処方法や補完手段の体得、疲労のマネジメントを図ることとする旨を説明し、1ヶ月後に再度報告を行うことでの了承を得た。

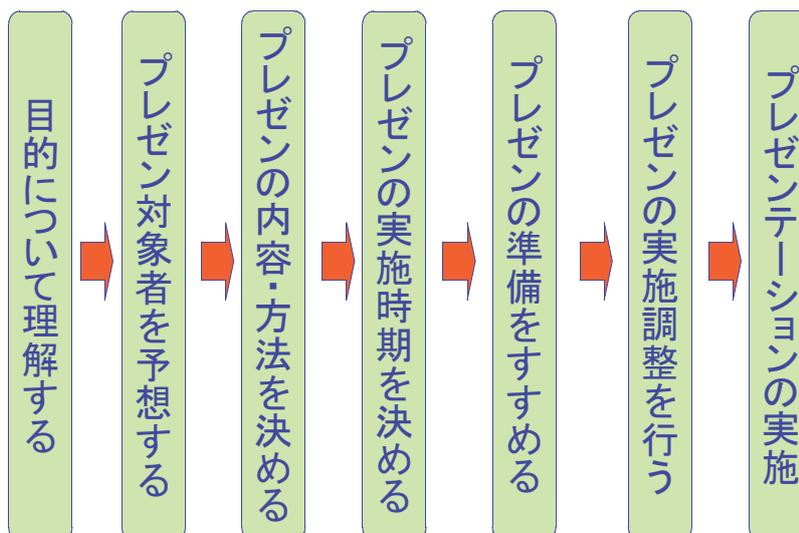


図10 プレゼンテーションを行うまでの流れ

#### ②休職期間満了2ヶ月前

プログラムの本格利用にあたっては、前述の目標に加え、人事担当者が納得して事業所内調整を行うことができるような報告が必要であると判断し、プログラムにプレゼンテーショントレーニングを加えた。プレゼンテーショントレーニングは、利用者自らが事業所に対して、イ)受障の状況、ロ)作業場面での影響、ハ)プログラムの概要、ニ)対処方法や補完手段、ホ)復帰にあたって希望すること、を説明できるように図10の流れに沿って実施している。プレゼンテーション後の事業所における職場再配置の検討期間を考えると、スケジュールに余裕は無く、作業とプレゼンテーション資料の作成及びプレゼンテーションの練習を平行して実施する必要があり、十分なスケジュール調整を利用者との相談を通して行った。

#### ③休職期間満了1ヶ月前

1ヶ月間のトータルパッケージの作業課題を中心とした補完手段の獲得支援及びプレゼンテーショントレーニングを経て、事業所において人事担当者、元職部署の責任者、産業医同席のもと、利用者自身による復帰のためのプレゼンテーションを実施した(プレゼンテーション資料は、前述の『Ⅱ. 利用者支援編 3. プログラムから職場へ 2) 般化作業の実際』の項参照)。プレゼンテーションによる成果として、事業所の産業医が、利用者の高次脳機能障害の状態について適切に捉えることとなり、作業内容の見直しや緩和出勤の実施の必要性について理解を得ることにつながった。

#### ④休職期間満了まで3週間

プレゼンテーション実施後、事業所内では職場再配置の調整が行われた。その結果、別の事業場における部品分解・分別作業を中心とした単純反復定型作業の提案を受け、利用者自らも事業所見学を行った。その段階で、すでに利用者は、自身の障害と職務との関

係について適切に理解をしており、抵抗無く提案された作業を受け入れることができた。新しい職場では定型作業を長時間行う必要があることから、プログラムを新しい作業を想定した内容(ボールペンの分解作業)に変更し、残された期間で作業耐性の向上を図ることとした。

⑤休職期間満了時

3週間の緩和出勤実施後、職場復帰を果たすこととなった。復帰にあたっては、疲労のセルフマネジメントが課題であったことから、地域センターのジョブコーチによる支援を通じて引き続き職場内における自立性を高めるための支援につなげることとした。

---

## IV. まとめ

---

### 1. 今後の方向性について

---

高次脳機能障害の標準的な評価基準及び支援プログラムの確立を図ることを目的として、国は平成13年度から高次脳機能障害者モデル事業を全国12の自治体で実施し、平成17年度で終了している。平成18年度以降については、高次脳機能障害者の特性に応じたサービス利用を基本に、「高次脳機能障害支援普及事業」への移行が予定されており、その概要は、都道府県が事業の主体となり、支援拠点機関への相談支援コーディネーターの配置による、「専門的相談の実施」、「関係機関との連絡・調整」及び「自治体職員・福祉事業者等に対する各種研修の実施」等を行うとされている。今後、普及事業の展開に伴い、高次脳機能障害者の支援ネットワークがそれぞれの自治体で整備されていくことが期待されるが、併せて利用者や家族、それを支える医療リハビリテーションに従事するスタッフからの、就労支援機関に対する期待はこれまで以上に高まってくると考えられる。職業リハビリテーション機関としては、高次脳機能障害者に対する支援技法の開発を一層進めると共に、それらの開発成果を利用者個々の支援のみならず一般的な技法として普及していくことが期待されている。そうした中、今後の技法開発にあたっては、以下の視点が必要であると考えられる。

#### (1) 障害認知からキャリアアンカーへ

途中で障害を負い混乱状況にある利用者は、認知面での障害も相まって、自己の障害に対して複雑なとらえ方をしており、かつ悲嘆の状況に置かれているところからリハビリテーションが開始されるのが一般的である。そこで、職業リハビリテーションの取り組みは、障害の認知を図り、自己肯定感を高めることを第一歩としつつも、その後の職業自立を考え、職業との関係性における障害認知に対する支援が必要であると考えられる。

キャリア選択に際して使用される『キャリアアンカー』という概念は、「どうしても犠牲にしたくない、本当の自己を象徴するコンピタンスや動機、価値観」や「長期的な仕事のよりどころ」と言い換えることができるが、高次脳機能障害者への就労支援についても、このような視点を支援者は持つべきと考える。利用者は、受障後の職場や職務に対して、「様々な環境・要因から選ばざるを得なかった」、「選択することさえできない・・・」というマイナスの認識をすることがある。その認識を軽減し「自身の意志で選択及び決定したものである」という自己決定の認識を高めるアプローチが必要である。自己決定により選択した職場や職務であるからこそ、意欲的に職務を遂行し、障害がありつつも自己を再構築することができるのではないだろうか。その意味で『キャリアアンカー』という視点に立った支援が職業リハビリテーションのプロセスで求められている。

## (2) 般化の支援技法の検討

高次脳機能障害者の就労支援は、障害特性から3段階のステップを踏むことが有効と考える。それは、イ) 構造化された環境下において、可能な限り他のピアモデルとの情報交換が可能となる環境を用意し、障害の補完手段や対処方法等について成功経験を積みながら、障害認識を促す段階、ロ) 構造化された環境で学習した対処方法や補完手段を、実際の職場環境において活用を図るための般化の段階、ハ) 実際の職場環境において自立的な職務遂行を図る段階、である。

これらの3段階において、当プログラムとして今後特に、重点的に取り組む必要があると考えるのが、ロ) の般化に関する支援である。先述したように、般化について復帰プログラムでは、復帰先の職場・職務があらかじめ把握できており、その環境に合わせた般化手続きがプログラムに盛り込まれることが必要とされる。しかし、準備訓練のプログラムにおいては、プログラム終了と実際の職場環境での支援が連続しないことから、般化についての支援をより重要視する必要がある。障害認識を促す支援段階で関わっている支援スタッフから、実際の就労場面における支援スタッフ、さらに職場の上司や同僚に対し、支援者、課題や場面の移行期における支援技法をいかに伝えるかについて、さらに経験を蓄積する必要がある。

なお、実際の職場環境への移行段階において、緩和出勤を導入し、復帰後の職務を事業所内でトレーニングする方法をとる場合は、事業所での緩和出勤の取り扱いが制度として確立している場合は別として、労働者性の発生の有無について留意する必要がある。

---

## 2. 家族支援の今後の課題について

---

当プログラムでは、家族に対する支援も併せて実施している。家族は、受障による利用者の変化をどのように捉えたらいいのか、今後どう関わっていくべきなのか、何をすればいいのか、混乱や試行錯誤、断念、理解、代償、納得、を繰り返しながら利用者との関係性について再統合を図ることが求められる。当事者団体や家族会等は、これらの過程をサポートする有効な組織であるが、まだ全国的な展開までには至っておらず、当プログラム利用者の場合もそれらの利用率は低い。

準備訓練ではプログラム開始時の開講式や開始後3週間から1ヶ月程度経過した頃に実施している家族懇談会等において、障害についての知識理解や日常生活における障害の現れ方、その対応方法を伝える取り組みをグループワークの手法を活用して実施している。また、プログラム全体を通して、補完手段を日常生活場面でも活用することを勧め、補完手段についての共通の理解や取り組みを行うよう支援している。さらに有効な支援を行うためには、就労場面のみならず、プログラムで得られた支援が日常生活の場面においても有効であることが家族に理解されることにより、相乗効果があるのではないかと考える。今後の取り組みとしては、支援開始段階から個別具体的な家族支援を行うことが必要であると考えられる。

## V.参考資料

### 参考資料<1> グループワークの記録

本編16ページに記載のある準備訓練第2週目に行ったグループワークの発言記録。

F = 司会、a～f = 各利用者

| 発言者 |   |   |   |   |   |   |   | 発言内容                                                                                                                           | 分類コード |   |   |
|-----|---|---|---|---|---|---|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---|---|
| 1   | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |                                                                                                                                | E     | C | B |
| F   |   |   |   |   |   |   |   | グループワークは皆さんと一緒に「高次脳機能障害とはなんだろう?」ということを考えていく場です。皆さんの体験を通じて、高次脳機能障害っていったい何だろうということを考えていきたいと思います。まずは、知識や体験を共有していきましょう。            |       |   |   |
| F   |   |   |   |   |   |   |   | 昨日の帰りのミーティングでお願いしていたことから始めます。(付箋、ペンを配布)<br>考えてきて頂いた事を付箋に「大きな字」「一枚にひとつ」「何枚でも」のルールでお願いします。出てきた内容で「自分もそうだ!」と思う事があれば書いてもらってかまいません。 |       |   |   |
| F   |   |   |   |   |   |   |   | これから、付箋に書かれた内容をグルーピングして、高次脳機能障害について説明していきましょう。また、その中で、書いてもらった個別の内容について紹介してもらえると嬉しいです。                                          |       |   |   |
| F   |   |   |   |   |   |   |   | まず、多いのは、趣味ですね。この付箋紙のあたりが注意でしょうか。個々あたりが記憶に関すること。こちらでグルーピングするよりは、皆さんから紹介してもらいグルーピングして欲しい。紹介したい方は?                                |       |   |   |
| F   |   |   |   |   |   |   |   | 「車・バイクに乗れなくなった」というのは?                                                                                                          |       |   |   |
|     | e |   |   |   |   |   |   | 私です。免許は持っているが、頭を手術しているため、2年は乗っちゃダメ、と言われている。趣味は趣味なので。ただ、今はできない。                                                                 |       | 1 |   |
|     |   | c |   |   |   |   |   | 僕も同じ…。運転したいんだけどできない。                                                                                                           |       | 2 |   |
|     |   | a |   |   |   |   |   | 同時にいろいろできなくなった。                                                                                                                |       | 1 |   |
|     |   |   | e |   |   |   |   | 同じですね。難しくなった。                                                                                                                  |       | 2 |   |
|     |   |   |   | c |   |   |   | テレビを見ながら何かできたのに、今はテレビのみ。片手間にテレビを見られなくなった。                                                                                      |       | 1 |   |
|     |   |   |   |   | e |   |   | それほど感じはしないが、他者からみたらどうかはわからない。自分で「ながら」でやっているかわからない。                                                                             | 1     |   |   |
|     |   |   |   |   |   | c |   | 歩く練習をするときにチェック項目が3つ4つあるが、やっているとどれを注意してやっているか判らなくなってしまう。(膝、足首…)                                                                 |       | 1 |   |

|   |   |   |   |   |                                                                                                                                                                    |  |   |  |
|---|---|---|---|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|---|--|
|   |   |   |   | F | それも、同時にいくつかのことですか？                                                                                                                                                 |  |   |  |
|   |   |   |   | c | はい。                                                                                                                                                                |  |   |  |
| F |   |   |   |   | 注意の配分ですね。                                                                                                                                                          |  |   |  |
|   | c |   |   |   | はい。                                                                                                                                                                |  |   |  |
| F |   |   |   |   | ここは、注意の集中が書かれていますね。                                                                                                                                                |  |   |  |
|   |   | b |   |   | 疲れてくると注意が散漫になってきます。疲れていなければ大丈夫。疲れてくると周囲の音が聞こえてくる。                                                                                                                  |  | 1 |  |
|   |   |   | F |   | 疲れている時に注意の集中ができないということなんですね。同じように感じる方はいますか？                                                                                                                        |  |   |  |
|   |   |   |   | a | 欠伸がでできます                                                                                                                                                           |  | 1 |  |
|   |   |   |   | e | 病気になってから疲れやすかったです。溜息が増えた。                                                                                                                                          |  | 1 |  |
|   |   |   |   | c | 頭がいつぱいいつぱい。                                                                                                                                                        |  | 1 |  |
|   |   |   |   | e | 頭が溜息をついている感じがする。                                                                                                                                                   |  | 1 |  |
|   |   |   |   | b | 欠伸をしてしまう                                                                                                                                                           |  | 1 |  |
|   |   |   |   |   | あったと思うが、すぐに忘れてしまう。                                                                                                                                                 |  | 1 |  |
| F |   |   |   |   | これも1つのグループと思うがなんでしょね？                                                                                                                                              |  |   |  |
|   | c |   |   |   | 疲労でまとめられるんじゃないでしょうか。                                                                                                                                               |  |   |  |
| F |   |   |   |   | bさんが言ったように、疲れてくると注意集中ができにくくなる。この関係性についても考えてみましょう。注意集中と疲労とは関係しているんですか？考えがまとめられなくなってしまうんだよね。                                                                         |  | 1 |  |
|   | c |   |   |   | 気が散っちゃう。考え事をしているのはわかるけど、何を考えているかわからなくなっちゃう。                                                                                                                        |  | 1 |  |
|   |   | a |   |   | 考えていると違うことを考えてしまい、考え始めたことと考え終わったことが違ってしまふ。                                                                                                                         |  | 2 |  |
|   |   |   | F |   | 同じような人は？                                                                                                                                                           |  |   |  |
|   |   |   | b |   | はい。説明が下手になりました。説明しようとするとうるぐる頭の中で考えがまわってしまいます。自分が言いたいことはわかっているんだけど、他の人はわからないんだろうな、と思ってしまふ。ちゃんと前もって書くなりして整理してから話さないといけない。以前は考えながら話せたけど、今はそう言う余裕がなくなった。しゃべるまえに書くんですね。 |  | 1 |  |
|   |   |   | b |   | はい。話す前に書く事をすれば大丈夫。                                                                                                                                                 |  | 1 |  |
|   |   |   | c |   | 何とかなるだろうと思って始めてしまふと、たいがい失敗してしまふ。これまでは、その場しのぎですごしてきたけれど、今はそれができない。                                                                                                  |  | 1 |  |
|   |   |   |   | b | 始めに計画を立てなければいけないんですね。                                                                                                                                              |  | 6 |  |
| F |   |   |   |   | 他の方に聞いてみたい事はありますか？                                                                                                                                                 |  |   |  |
|   | f |   |   |   | よく食べるというのは？                                                                                                                                                        |  |   |  |

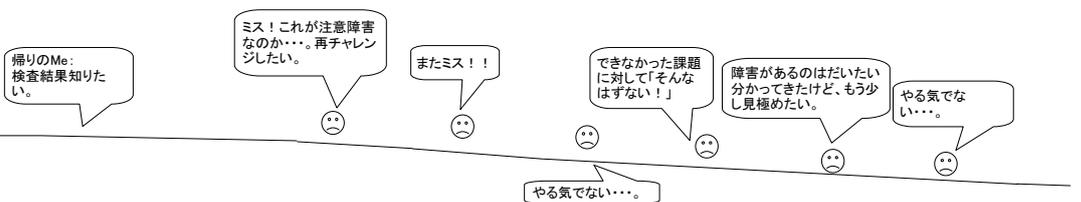
|   |   |   |   |   |                                                                                                                                                                  |   |   |   |
|---|---|---|---|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|
|   |   | a |   |   | これ、私です。間食をしてしまうんです。                                                                                                                                              |   |   |   |
|   |   |   | f |   | 私もそうです。                                                                                                                                                          |   | 2 |   |
|   |   |   |   | a | 私は、手術してから後一ヶ月ちよつと何も食べずの状態だったから、そのときのことをまだ覚えているみたい。もうたくさん食べても良いかな…と思って食べたら、止まらなくなった。お菓子もそうだし、食事でもです。時間がかかるようになった。量的にもたくさん食べるようになった。                               |   |   |   |
|   |   |   |   | F | 入院中に食べれなかったから？                                                                                                                                                   |   |   |   |
|   |   |   |   | f | 私も、入院した時は入院食でやせたため、元をとる…ということでよく食べてもいいと思い自宅でよく食べるようになった。                                                                                                         |   |   |   |
| c |   |   |   |   | ストレス解消ですよ                                                                                                                                                        |   |   |   |
|   |   |   |   | c | 太ったりやせたり体重変動は大きいですね。ストレスで食べてしまいます。                                                                                                                               |   |   |   |
| b |   |   |   |   | 食事量は変わらないけれど、病気前は太っていたが病気後やせた。ストレスで太ったんだと思う。                                                                                                                     |   |   |   |
|   |   |   |   | F | 聞いてもいいかな。「キレちゃう」ってどういうこと？                                                                                                                                        |   |   |   |
|   |   |   |   | a | 切れると目つきが変わるんです。自分が思ったとおりにならないと切れちゃう。事故に遭う前はどうだったかわからないけど…。以前から家の中では切れてたと思う。自分で気づいている。                                                                            |   | 1 |   |
|   |   |   |   | F | 切れやすくなった人は？                                                                                                                                                      |   |   |   |
| c |   |   |   |   | 今は直った。今、切れてる…というのを客観的に捉えられると、直った。                                                                                                                                | 6 |   |   |
|   |   |   |   | F | 理性、客観性。aさん、この3人も以前は切れていたようですが、今はそんな様子はないですよ？                                                                                                                     |   |   |   |
| c | e |   |   |   | 怒りっぽい自分を客観的、第3者的にみると「恥ずかしい」と思えるようになって、切れるのを抑えられるようになりました。<br>それぞれ理由はあるが、よく考えるとそこまで怒る必要のないこと。イライラの原因がわからなかったけど…。抑えられるようになるまで1年かかりましたね。aさんは自分で気づいているから、大丈夫なんじゃないの？ | 6 | 2 |   |
|   |   | a |   |   | 家族にたいしては、難しいかも。家の外でもそうだけど、家の中では姉、おじいちゃんに対して切れてしまう。                                                                                                               |   | 1 |   |
|   |   |   |   | a | 僕の場合、このままじゃあいかん、と思ったんですよ                                                                                                                                         |   |   | 2 |
|   |   | e |   |   | 結構悩んでるんですよ。                                                                                                                                                      | 6 |   |   |
|   |   |   |   | b | 私は前よりは怒りやすくなったと思うが、もともと怒らない方だった。頻度的には多くなったと思う。                                                                                                                   |   | 1 |   |
| F |   |   |   |   | 自信がなくなった、を書いた方は？                                                                                                                                                 |   |   |   |
|   |   | b |   |   | 自分がやったことがあったのかどうか、判らなくなり、自信が持てない。作業していても2倍の時間がかかる。                                                                                                               |   | 1 |   |
|   |   | c |   |   | 信頼されて、任されてしまうと逆にどうしようかって思っちゃうんだよね。                                                                                                                               |   | 2 |   |

|   |   |   |   |   |  |                                                                                         |   |   |
|---|---|---|---|---|--|-----------------------------------------------------------------------------------------|---|---|
|   |   |   | b |   |  | やってみないと何が自分でできるのかわからない。やっていると、自分に自信を持ってない。                                              |   | 1 |
| b |   |   | b |   |  | 僕は以前は、データ、数の仕事をしていた。だけど今は障害があるからデータ管理なんかとんでもないと思ってしまう…。何とかやっつける方法を考えないと…                |   | 1 |
|   |   |   | c |   |  | 最近、徐々に良くなってきているんじゃないの？                                                                  |   |   |
|   |   |   |   | a |  | かなり努力されているのでは                                                                           | 6 |   |
|   |   |   |   |   |  | いえいえ。                                                                                   |   |   |
| c |   |   |   |   |  | タクシーに乗った時に左右の指示を出せない。地図などは読めるが、練習して以前よりはわかるようになったが、とっさの判断がしにくい。特に聞いた時にどちらかすぐに判断するのが難しい。 |   |   |
| b |   |   |   |   |  | 例えば、左を見てください、と言われるよりは、窓を見てください、の方がわかりやすい？                                               |   |   |
|   | c |   |   |   |  | はい。                                                                                     |   |   |
|   |   | F |   |   |  | これは、失認と言います。認められない。左右失認、と言います。                                                          |   |   |
|   |   |   | b |   |  | 僕も、左右とか人差し指とか、わからなかった。覚え直して今は直りました。                                                     |   |   |
|   |   |   |   | F |  | cさんの対応方法としては、左右で伝えずに目印で伝える。                                                             |   |   |
|   |   |   |   | c |  | 一度にいくつかのことを考える。1つなら大丈夫だけれど、複数のことを考えられない。テレビを見ながら…                                       |   |   |
| F |   |   |   |   |  | 実は1時間弱前に同じ話をしましたが…                                                                      |   |   |
|   | c |   |   |   |  | デジャブですね。                                                                                |   | 2 |
|   |   | F |   |   |  | 記憶障害の方で10分前のことを覚えられない方もいて、相談で同じ話が何度もでることがあります。                                          |   |   |
| F |   |   |   |   |  | グループワークが1時間たちました。そろそろ、終わりにしましょう。                                                        |   |   |
|   |   |   |   | f |  | シートをみていると、大なり小なり該当することが多いなと思った。事故から2年半立ってくると、多少なりなくなってくることがあると思う。疲労からとりくみ克服していきたい。      |   | 2 |
|   |   |   |   | b |  | 皆さんの話をきけて良かった。疲れっていうのが、ポイントなんだな、というのがわかっただけでもよかった。なので、疲れをどうやっつけていこうかなと思います。             |   | 2 |
|   |   |   |   | a |  | 疲れしました。なんか、いっぱい出すぎて、、、わかんない。                                                            |   | 1 |
|   |   |   |   | c |  | みんな同じようなことで悩んでるんだとわかり、自分も人間なんだなあと考えて良かった。                                               |   | 2 |

参考資料<2> 本編23ページの事例詳細

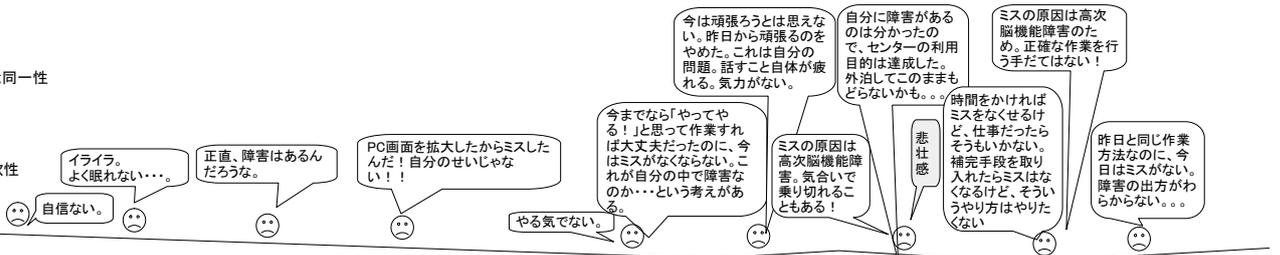
| 週      | 第1週目                            |                |                                      |                                                                         |                                                                                           | 第2週目                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                 |                                                                |                                                                                                                |     |
|--------|---------------------------------|----------------|--------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 日数     | 1                               | 2              | 3                                    | 4                                                                       | 5                                                                                         | 6                                                                                                                                                                                              | 7                                                                                                                               | 8                                                              | 9                                                                                                              | 10  |
| 曜日     | 水                               | 木              | 金                                    | 月                                                                       | 火                                                                                         | 水                                                                                                                                                                                              | 木                                                                                                                               | 金                                                              | 月                                                                                                              | 火   |
| 元気度    |                                 | 40%→40%        | 45%→45%                              | 40%→45%                                                                 | 60%→50%                                                                                   | 50%→50%                                                                                                                                                                                        | 50%→30%                                                                                                                         | 30%                                                            | 40%                                                                                                            | 50% |
| ミーティング |                                 |                | 婦: 検査結果の質問あり。                        |                                                                         | 婦: 文章入力について、以前はやり方が分からなかったためミスが出たが、今回はやり方が分かった上でミスが出た。これが注意力の障害なのか…。ミスはくだらない内容。再チャレンジしたい。 | 婦: 思い込みを踏まえて作業した。見直しをしてミスを防げたと思っがミスが出た。設定が異なるPCを使用する際、柔軟性に欠ける。                                                                                                                                 |                                                                                                                                 |                                                                |                                                                                                                |     |
| GW     | ・開講式挨拶にて、「障害があるのかないのか確認したい」と話す。 |                |                                      | ・近隣体験には参加せず医務室で休む(漫画を読む)。その後の施設案内等には積極的に発言、返答。<br>・他の利用者が困っている場面で手助けする。 |                                                                                           |                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                 |                                                                |                                                                                                                |     |
| 作業     |                                 |                |                                      |                                                                         | ・MWS簡易版<br>・感想(MN): 休憩は1時間に1回程度が良い。作業ミスがあり、以前との違いはこういうところなのか…。もう一度挑戦したい。                  | 簡易版: ミス0<br>・簡易版: ミス2<br>・WCST: 「やる気がでない。理由は分からない。」ということから延期。何かあったのか質問すると「だから、分からないと言っている」と強い口調で話す。<br>・時間と場所、スタッフに声をかける。という3点を本人に伝えるが、スタッフへの声を本人は覚えていない。→自分から指示を受けたスタッフに確認し、忘れていたことにショックを受ける。 | ・高次脳機能検査<br>・WCST: ルールの推測ができてから、補完手段を導入。→「注意障害」について資料を用いて説明し、本人に資料を渡す。<br>・文章入力: ミス2<br>・感想(MN): 障害があるのかあ…。ひねくれているのかなあ…。との記述有り。 | ・文章入力<br>・ミス2。<br>・言い訳多い。<br>・感想(MN): 間違いがある前提で取組まないといけないと思った。 |                                                                                                                |     |
| 個別相談   |                                 |                | ・プログラム受講目的について「自分に障害がないことを確認したい」と話す。 |                                                                         |                                                                                           |                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                 |                                                                | ・ミスが出た作業ももう一回やれば…と思っが、そういう障害なんだなあ…とも思う。障害があるのはだいたい分かっていたが、もう少し見極めたい。自分が納得してから、補完手段を取り入れたい。心の整理にはもう少し時間がかかるだろう。 |     |
| その他    |                                 |                | ・休憩時間中、受障直後やその後の経過について他の利用者に質問。      |                                                                         |                                                                                           |                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                 |                                                                | ・夕れに遅刻。                                                                                                        |     |
| 体調     | 37°                             | 36.8°<br>倦怠感あり | 37°                                  | 37.2°<br>倦怠感あり                                                          | ・体温計のはかり方について、表示確定後も計り続けることで体温が上がることの訴えあり。                                                |                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                 |                                                                |                                                                                                                |     |
| 睡眠     |                                 |                |                                      |                                                                         |                                                                                           |                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                 | ・あまり眠れなかった(翌日の朝の話)                                             | ・就寝時間: 1:30。(自宅と布団や枕が異なるため寝付きが良くない)                                                                            |     |

意味づけ・自我同一性  
再統合  
受容  
代償・調整  
理解  
自己認識・柔軟性  
悲嘆

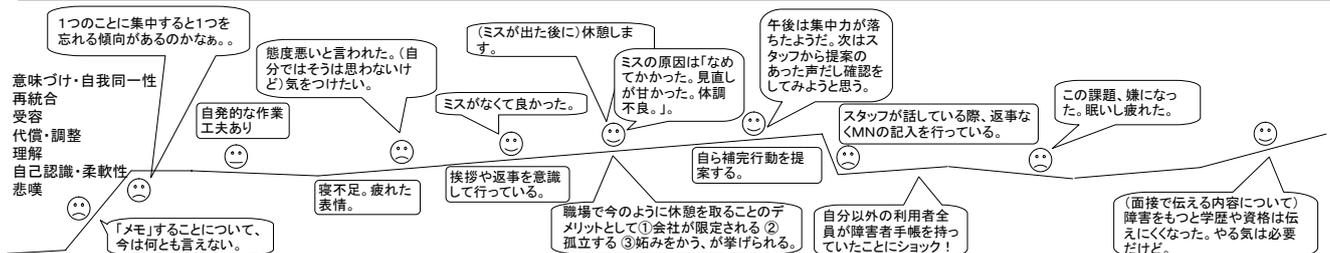


| 週      | 第3週                                                  |                                                                                                                                                           |                                                          |                                                                                                                                     |                                                                                                | 第4週                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                |
|--------|------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日数     | 11                                                   | 12                                                                                                                                                        | 13                                                       | 14                                                                                                                                  | 15                                                                                             | 16                                                                                                                                                                            | 17                                                                                                                                                                           | 18                                                                                                                                                                                         | 19                                                                                                                                                           | 20                                                                                                                                                                             |
| 曜日     | 水                                                    | 木                                                                                                                                                         | 金                                                        | 月                                                                                                                                   | 火                                                                                              | 水                                                                                                                                                                             | 木                                                                                                                                                                            | 金                                                                                                                                                                                          | 火                                                                                                                                                            | 水                                                                                                                                                                              |
| 元気度    | 50%                                                  | 50%→60%                                                                                                                                                   |                                                          | 60%→60%                                                                                                                             |                                                                                                | 20%→20%                                                                                                                                                                       | 25%→35%                                                                                                                                                                      | 20%                                                                                                                                                                                        | 40%→30%                                                                                                                                                      | 40%→40%                                                                                                                                                                        |
| ミーティング |                                                      | 掃:GWの感想についてスタッフより質問。特に「掃」は返答しなくて良いです。→本人は特にない、とのこと。午前中の感想はどうだったかの質問に返答せず。(特に「掃」は良いと書いていたのに、さらに質問されたことにイライラ)                                               |                                                          |                                                                                                                                     |                                                                                                |                                                                                                                                                                               | 掃:気持ちの問題が結果に影響しているのかな。集中しないとミスが出たりスピードが落ちる。                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                |
| GW     |                                                      | 高次脳機能障害とは①(午前)・記憶面は自分は問題ないと思う。<br>・作業の中で障害は見えてきた。感情的な部分は前と比べてどうか、障害に繋がるのかまだわからない。<br>※全体への質問に対して発言あり。個別な障害について他の利用者の「記憶」について発言があるが、本人自身の個別の障害内容について発言はない。 |                                                          |                                                                                                                                     | 「高次脳機能障害とは②」<br>・障害者自立支援法案の説明と併せて障害者手帳の説明を行う。<br>・疲労、意欲・感情と各障害への影響についてスタッフから説明する。              |                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                            | 「高次脳機能障害とは③」<br>・疲労について:精神疲労で注意・集中・眠気、、、を感じる。<br>・感想:疲労の自覚はないが、結果をみると事故してから仕事をしていないため体力がなくなると思う。仕事をするためには体力UPをしなくては行けない。<br>※自発的に発言することなく、個別に質問された場合に発言するのみ。 |                                                                                                                                                                                |
| 作業     | ・感想(MN):間違えずにできたが、見直しを何処までやればいいのか、自信がないため見切りをつけられない。 | ・感想(MN):昨日よりも時間短縮し、かつ正確にできたと思う。                                                                                                                           | ・感想(MN):間違える点に注意してからミスがなくなっていると思う。                       | ・ミスにスタッフに責任転嫁。そのことをスタッフと話している最中に離席。<br>・補完手段、行動について、口頭で情報提供しても抵抗感が強いが、実際にやってみせると「知らなかった」との発言あり。<br>・感想(MN):ミスがあったこともあり、あまりやる気がなかった。 |                                                                                                | ・指示内容の抜け落ち、打ち間違えが多い。スピードへの意識はない。休憩を20分希望するが、休憩してもやる気は出ない、と言う。<br>・感想(MN):やる気がない。<br>・休憩30分の申し出あり。作業終了時間となることなどから、Meにですぐに作業終了にするか否か決めてもらう。→10分の休憩。休憩中、他の利用者とは話をした様子。休憩後の態度が丁寧。 | ・疲労回復のための休憩ではなく、今はがんばろうとは思えない。昨日から頑張るのをやめた。このことは自分自身の問題。これについて、話すこと自体が疲れる。気がない。<br>・休憩30分の申し出あり。作業終了時間となることなどから、Meにですぐに作業終了にするか否か決めてもらう。→10分の休憩。休憩中、他の利用者とは話をした様子。休憩後の態度が丁寧。 | ・ミス2。<br>・こんなミスをしていたらスピードなんて言われてられない。(まずは正確にできないと...)。<br>・レベル5をクリアしたことについて「たまたま」と表現。ミスのあるなしにかかわらず、100%正確に行う自信はない。自信は40%程度。<br>・ミスの原因は高次脳機能障害。注意。気合いで乗り切れることもある。                           |                                                                                                                                                              | ・昨日と同様の作業を行ったが昨日はミスがあり、今日はミスがなく、障害の出方が分からなくなった。<br>・色々な方法を教えてもらって...作業スピードは早くなっていた。<br>・「疲れや気分が結果に影響しているのでは?」との問いに「そうかもしれないけど...」と返答。「仕事として今日の課題はできそう?」との問いに「そこが問題なんですよね」とのこと。 |
| 個別相談   |                                                      |                                                                                                                                                           | (文書入力だけを見ると)正直なところ障害はあるんだな、と思う。文字が二重に見えることがミスに繋がっていると思う。 |                                                                                                                                     | (月曜日の作業について)作業の指摘を受けて「やってやる」と作業を取組んでみたが、結果、ミスがあった。今までなら、そんなことはなかった。そういう部分が自分の中で障害なのか、という考えがある。 |                                                                                                                                                                               | 10:00~<br>意欲の低下や気持ちの波について話をしながら、「自分の今の状態は『悲壮感』にある」と表現する。                                                                                                                     | ・気合を入れれば大丈夫だが、気合が続きにくい。ミスが続かない。ミスがあったときは「たまたま」。<br>・ミスの原因は高次脳機能障害によるミス(本人言い切る)。→正確な作業を行う手ではない。→努力するしかない。→正確性だけを考えると時間をかければ100%達成できるかもしれないが、仕事だとそうもいかない。→補完手段を取り入れたらミスは防げるが、そういうやり方はやりたくない。 | ・作業の目標について相談をする。本人からGW「高次脳機能障害とは②」で話のあった、障害者手帳について質問あり。→申請方法や制度を説明する。                                                                                        |                                                                                                                                                                                |
| その他    |                                                      |                                                                                                                                                           |                                                          |                                                                                                                                     | ・宿泊棟の鍵を黙っておいていく(一言声をかけて欲しい)→「努力します」                                                            |                                                                                                                                                                               | (翌日の休日の朝の宿泊棟の様子)<br>・外泊してもそのまま寝ないかもしれない。自分に障害があるかを知るのが、センター利用の目的であり、そのことがわかったら目的は達成した。→(これからの訓練で補完手段を身につけることが大切であると、本人を励ます。)                                                 | ・昼休みに宿泊棟にもどりたいので自室で休みたい。→(スタッフに伝えておきます。→スタッフに連絡を入られるのは嫌な様子で、自室で休まずに戻る。                                                                                                                     |                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                |
| 体調     |                                                      |                                                                                                                                                           | 37°                                                      |                                                                                                                                     |                                                                                                |                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                            | ・36.8°<br>・倦怠感あり                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                |
| 睡眠     |                                                      | ・よく眠れなかった。(ここ数日、夢を見ているように夜中に目が覚める。)                                                                                                                       |                                                          |                                                                                                                                     |                                                                                                |                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                |

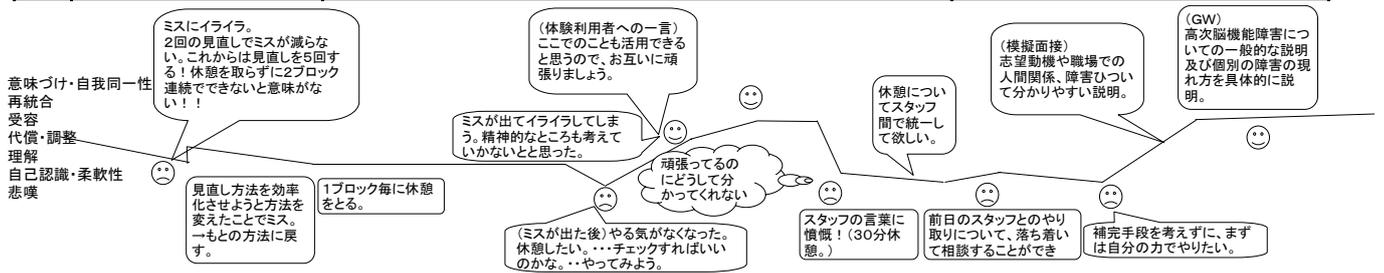
意味づけ・自我同一性  
再統合  
受容  
代償・調整  
理解  
自己認識・柔軟性  
悲嘆



| 日数     | 第5週                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                         |                                                                                                        | 第6週                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                               |                                                       |                                                                                                                                       |                                                                                                       |                                                        |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
|        | 21                                                                                                                                                                                     | 22                                                                                                                                      | 23                                                                                                     | 24                                                                                                                     | 25                                                                                                                                                                                                                                                  | 26                                                                                                                                                                            | 27                                                    | 28                                                                                                                                    | 29                                                                                                    | 30                                                     |
| 曜日     | 木                                                                                                                                                                                      | 月                                                                                                                                       | 火                                                                                                      | 水                                                                                                                      | 木                                                                                                                                                                                                                                                   | 金                                                                                                                                                                             | 月                                                     | 火                                                                                                                                     | 水                                                                                                     | 木                                                      |
| 元気度    | 40%→40%                                                                                                                                                                                | 40%→50%                                                                                                                                 | 40%→40%                                                                                                | 60%→60%                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                     | 60%→60%                                                                                                                                                                       | 63%→50%                                               | 60%→50%                                                                                                                               | 60%→50%                                                                                               | 60%                                                    |
| ミーティング | 帰:スピードを意識して作業手順を変えた。とたん、ストップウォッチの押し忘れがあり、「1つのことに集中すると1つを忘れてしまう傾向があるのかなあ..」                                                                                                             |                                                                                                                                         | 帰:態度悪いと指摘されたので心がけた。                                                                                    | 帰:ミスなくて出来て良かった。                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                     | 帰:午前はミス0で、気がゆるんだのか、午後は集中力が落ちたよう。未退からはスタッフから提案のあった声だし確認をしてみようと思う。                                                                                                              | 帰:先週末から午後がひと言なし。今日もミスが出て、明日はミスなくやりたいと思いました。           | 帰:遅れて入室するがひと言なし。今日もミスが出て、明日はミスなくやりたいと思いました。                                                                                           | 帰:正直が作業で遅れていないため、本人が自発的に代行。                                                                           |                                                        |
| GW     |                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                         | 「就職活動の進め方」・セミのコースには参加せず。(顔を上げることも少ない)<br>・GWのテーマを利用者の多数決で決定。「就活の進め方」になる。本人のみ「高次脳機能障害とは」を希望。<br>※本人の発言0 |                                                                                                                        | 高次脳機能障害とは④<br>・ミスが出たあとに疲れているのかな?と思うことがある。<br>・休憩は、何も考えないようにするために目を閉じている。<br>・実際の職場での休憩については、デリット3つを挙げる(会社が限定される。職場で孤立する。祈みをかう)。一般の人と同程度にできると思われないが、それに甘んじて休憩を取ろうとは思わない。ミスが起きるのであれば取る必要はある。休憩時間はできるだけ短くしたい。<br>・感想を発表する際、「働ける職場あるのか?」「数はどのくらいか?」と質問。 |                                                                                                                                                                               |                                                       |                                                                                                                                       | 高次脳機能障害とは⑤<br>・「わくわく・ときどきすること・したこと」・皆の話の聞いた後発表し、ロト6・サッカー・野球観戦を挙げる。「こうなれたらいいな」・健康者と同じように普通に生活ができてほしいな。 | 「面接について」・(質問に対しての返答)障害をもつと学歴や資格は伝えにくくなったりする。やる気は必要だけど。 |
| 作業     | ・作業時間の覚え間違えあり(14:30を14:25と覚えていた)。→職場での「言った、言わない」のトラブル回避のためにも、MNにメモを見ておく習慣があると良いことを伝える。一人は、「今はなんとも言えない」<br>・感想(MN)スピードアップしたらストップウォッチの押し忘れあり。一つに集中すると一つを忘れてしまったり、作業方法を覚えるのを忘れたりするようになった。 | ・ストップウォッチの押し忘れについて「注意障害から来ているのではないのか」。→対処方法3つから、物を使うことや目に見える形にすることに抵抗あり。「意識する」を選択。<br>・作業方法に工夫がみられる(本人は補完行動・手段との意識はない。)<br>・休憩を取りたがらない。 | ・ため息、あくび、視線・音を気にする様子がみられる。<br>・ミス無し。<br>・「わかりました」ありがとうございますなどの返事あり(小声)。<br>・休憩は本人に任せ、自分から休憩を取る。        | ・ミスが出た後に休憩の申し出あり。<br>・自発的にPC画面拡大やデータ指示書を裏返すなどする。<br>・感想:ミスについて「なめでかかった(気合)、見直しが甘かった」「体調不良」。<br>・態度面は意識して実行している様子がみられる。 | ・補完行動として用紙に丸印をつけることの許可を求める。<br>・ミスの対応策について、見直し確認の回数5回を増やす、と言う。スタッフから他の方法を考えることもできるが、ミスが出たらやりますよ、と話す。→本人より、今教えて欲しい、との要望があり伝える。                                                                                                                       | ・スタッフがFBしている際、返事もなくMNの記入を行っている。→Trより「自分のことを優先する場合は少し待って下さい」とクッション置ように伝える。<br>・午後はミスしやすい。睡眠不足が続いているが、自分の健康管理の問題。→ミスする前に休憩を取れると理想。まだ、前兆は「落ち着きなくなる。深呼吸が出てくる。打ち間違いが目立ってくる」ことを伝える。 | ・AMミス0、PMミス2。<br>・作業終了後:「この課題、嫌になった」。                 | ・午後ミス2。<br>・帰りのMeiに合うように作業を終えるよう伝える→「無理です」→間に合わない時は作業を一時中断してMeiに参加し、その後作業を行うよう指示→「実行」。本人は作業時間を超えて作業することは辛い(嫌)→そうならないよう計画的に作業を行うよう伝える。 | ・(ミスについて)ミスはミスとして仕方ないがイジワル問題すぎる。とことんやるしかない。                                                           |                                                        |
| 個別相談   |                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                         | ミーティングやGWでの態度について話をする。                                                                                 |                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                               | 11:00～<br>睡眠不足が続いている状況について話をする。その際、医療機関等についての情報提供を行う。 |                                                                                                                                       |                                                                                                       |                                                        |
| その他    |                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                         | 個別相談後、「態度が悪いといわれたが、自分ではそうは思わない」との話あり。                                                                  |                                                                                                                        | ・スタッフに不眠状態について相談してくる。訓練修了後に軽い運動をしようと思うが疲れて横になってしまふ。                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                               | ・訓練修了後:「疲れた。自分以外の訓練生全員が障害者手帳を持っていたこともショックだった。」        |                                                                                                                                       |                                                                                                       |                                                        |
| 体調     |                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                         | ・疲れた表情。睡眠時間が少なくてやや疲れ気味。                                                                                |                                                                                                                        | ・疲労と不眠・睡眠不足                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                               |                                                       |                                                                                                                                       |                                                                                                       |                                                        |
| 睡眠     |                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                         | ・睡眠時間が少なくてやや疲れ気味。<br>・就寝時間:3:00                                                                        | ・左側頭部に鈍痛があって眠れない。(25:30)→処方→2:00就寝。                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                     | 就寝時間:2:00                                                                                                                                                                     | 就寝時間:1:00                                             |                                                                                                                                       |                                                                                                       |                                                        |



|        | 第7週                                                                                                 |                                                                           |                                                                                  | 第8週                                                              |                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                            |                                                                                          | 第9週                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                              |    |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 日数     | 31                                                                                                  | 32                                                                        | 33                                                                               | 34                                                               | 35                                                                                                                                                                                                            | 36                                                                                                                                         | 37                                                                                       | 38                                                                                                                                                                                                         | 39                                                                                                                           | 40 |
| 曜日     | 金                                                                                                   | 火                                                                         | 水                                                                                | 木                                                                | 金                                                                                                                                                                                                             | 月                                                                                                                                          | 火                                                                                        | 水                                                                                                                                                                                                          | 木                                                                                                                            | 月  |
| 元気度    |                                                                                                     | 60%→60%(30%)                                                              |                                                                                  | 60%→60%                                                          | 60%→60%                                                                                                                                                                                                       | 40%→                                                                                                                                       | 60%→60%                                                                                  |                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                              |    |
| ミーティング |                                                                                                     |                                                                           |                                                                                  | 婦:「簡単だな、と気を抜いたらミスが生じた。少しの気のゆるみ、少しの疲れが答えに反映しやすくなった」と以前の自分と比較して発表。 | 婦:ミスが出てイライラしたりとか、それによって疲れが出たりする。精神的なところも考えていけないと思った。<br>・体験利用者への一言:「ここでも活用できると思うので、お互いに頑張らしましょう。」                                                                                                             |                                                                                                                                            | 朝:(ずつと下を向きうつむいている。)<br>婦:休憩の取り方についてスタッフ間で方法を統一して欲しい。                                     |                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                              |    |
| GW     |                                                                                                     | 「履歴書の書き方」(具体的な書き方について説明)                                                  |                                                                                  |                                                                  | 「履歴書作成について」<br>・「履歴書作成」の感想:転職経験が多くあり、目付が曖昧。実際に書くときは年金手帳で調べて書くこと。<br>・「希望記入欄」について:前と全然違うのは、障害があるという点。障害のことを何処まで書いていいのか、どう相手に表現すればいいのか、相手にとってどう書き方が良いのかを考えた。<br>・障害者手帳について:や障害者求人がない場合どうすればよいか質問あり。<br>※積極的に参加。 | 面接練習<br>・他の利用者の良かった点を発言する場<br>・改善点を言うことあり。<br>※自分自身の面接では緊張の様子。障害については「視覚、注意障害(メモすれば大丈夫)」。時間外についての質問は「疲労が出やすいため時間外は減らして欲しい」と返答。<br>※意欲的な参加。 |                                                                                          | 「模擬面接」<br>・志望動機やこれまでの職場での人間関係について、働くことについて、働く方を具体的に分かりやすく説明する。障害については具体的な説明に比して声がかき、まどまりに欠ける。疲労についての説明も自ら行う。全体として、面接官・スタッフから好評価であることを伝え、本人も満足した表情。但し、「面接練習」を行ったから目が経っておらず、また、別のことに時間を費やしたため進歩がなかった等言い訳をする。 | (他のプログラムと合同でグループワークを行う)<br>・障害について、グループ発表を行うにあたっては、他の利用者の意見を吸い上げ本人がまとめて発表。高次脳機能障害の一般的な内容から、個別の状況を説明。その際、脳疲労についてもふれる。         |    |
| 作業     | ・課題をなかなかクリアできないことや、PMにミスが多いことから、見直し回数減らす。入力を確定しないためのミスが発生。<br>・「2ブロック連続でクリアしない」と意味が強い)との考えを強く持っている。 | ・見直し方法を効率化しようと考え、実行したところミス、再度、見直し方法をもとのやり方に戻すこととなる。<br>・「見直し方法が甘い時があるよう。」 | ・午前ミス0。<br>・午後ミス2。<br>1ブロック毎に休憩をとるようになったが、2ブロック目の1、2ブロック目まで作業を行ったのち休憩。→結果ミスとなった。 | ・AM、PMともぼーっとしている、とのこと。<br>・昼休憩、体験利用者者と雑談。                        | ・ミスがあり「やる気がなくなった。休憩したい。」。見直し方法についてスタッフを話をしながら「チェックする」方法を本人が提案。スタッフが良い工夫である伝え、実行することとなる。                                                                                                                       | ・求人検索において「障害がある人の就職活動方法、職種、給与面が分からない」というが、スタッフと話をすることで「これまでの職種で探してみる」とのこと。                                                                 | ・本人から休憩の申し出あり休憩となったが、通常10分の休憩を30分とする。その際、時間についてスタッフに伝えることなく休憩に入ってしまう。また、30分休憩を午前中2回取る。   | ・循環作業:同じ筆記ミスあり。対応策についてスタッフの提案を受け入れず、まずは自力でやりたいと希望する。スタッフより、これまでのTP作業で十分自分の力を試している時間などないことを説明。また、補完手段も実際にやってみなければ有効かどうかは解らないことを伝え、本人は補完手段として読み上げを選択。                                                        | ・適切な休憩を自分から申し出る。                                                                                                             |    |
| 個別相談   |                                                                                                     |                                                                           |                                                                                  | ・就職活動について、地域や具体的な方法について相談を行う。                                    |                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                            |                                                                                          | 「2日前の作業について」<br>・自分はいつも頑張ってやっていると、認められないような言い方をされて頭にきた。気持ちを抑えようと思ったが、売り言葉に買い言葉で、その日の担当スタッフはいつも言い争いになってしまふ。そのため、担当をはずして欲しい。もし、無理なようであれば、このような言い方を止めて欲しいことを伝えてもらいたい。自分からはそういう言い方は嫌だと伝えてあるが、変化はなかった。          | ・本人は「思ったことを言わずにいよう」と思うが、言わないとストレスになる。」と話す。スタッフより「思ったことを相手に伝えることは重要。但し、自分が一方的に言ってしまうのは良くない。相手も自分もO.K.な伝え方ができるよ」となる。話し、納得した様子。 |    |
| その他    |                                                                                                     |                                                                           | ・夕食後、履歴書を作成。文章表現などをスタッフに質問する。                                                    |                                                                  |                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                            | ・朝食後、スタッフへの服薬報告がなかったためスタッフが声をかけた。「何かいうことがあったが言うのは止めた。」と返答。服薬の必要性などを話し、最終的には報告することの了解を得る。 |                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                              |    |
| 体調     |                                                                                                     | ・頭痛、目の奥の痛み、肩痛(昼頃より)                                                       | ・帰宅後「疲れた〜」                                                                       |                                                                  |                                                                                                                                                                                                               | (前日の休日の様子)<br>・胃の不快、胃もたれの訴え有り。夕食は6割程度食べる。                                                                                                  |                                                                                          | ・気分が悪い、食欲がない。                                                                                                                                                                                              | ・左肩から首にかけての痛みあり。                                                                                                             |    |
| 睡眠     |                                                                                                     |                                                                           | ・就寝時間:3:00                                                                       | ・就寝時間:1:00                                                       |                                                                                                                                                                                                               | (前日の休日の様子)<br>・睡眠不足のため日中に寝ていた。<br>・就寝時間:3:00。                                                                                              | ・就寝時間:4:30分                                                                              | ・就寝時間:1:00                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                              |    |





| 第12週   |                                                                                                                                                            |                                        |                                                                                                                                      |                       |                                                                                                                                                                                           |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日数     | 51                                                                                                                                                         | 52                                     | 53                                                                                                                                   | 54                    | 55                                                                                                                                                                                        |
| 曜日     | 水                                                                                                                                                          | 木                                      | 金                                                                                                                                    | 月                     | 火                                                                                                                                                                                         |
| 元気度    | 50%→50%                                                                                                                                                    | 60%→60%                                | 60%→70%                                                                                                                              | 70%→70%               |                                                                                                                                                                                           |
| ミーティング |                                                                                                                                                            |                                        |                                                                                                                                      | 帰:「明日おわり」という実感があまりない。 |                                                                                                                                                                                           |
| GW     |                                                                                                                                                            |                                        |                                                                                                                                      |                       | 【感想】訓練前半は「障害がある」と納得せざるを得ず、気持ちが落ち込んだ。しかし、GW等で障害の知識を得たり、作業ミスの対策を取り正確にできたことで、非常に高いと感じていた障害の壁を低く感じるようになった。今は、対応策を使って社会や会社に対応できれば決して自分は障害者ではないと思っている。これからは障害や考え方、行動など今までのことを整理して今後活かして働きたいと思う。 |
| 作業     | ・自ら休憩は取るが「あと少しやっつけから・・・」「調子がいいから・・・」と休憩のタイミングは一定しない。<br>・本人は気付かずに通常と異なる作業方法で行ってしまふミスとなる。「ミスが出やす自分のパターンをわかっているのいざというときに対処法を使用できず勿体ないですね」というスタッフの話を笑顔で聞いていた。 | ・2ブロック連続ミスであったことから、休憩を取らず行った3ブロック目にミス。 | ・ミスが出たときの感想として「疲れている感覚はない」とのこと。<br>・スタッフから「気分転換でもしたら？」の声かけに固辞することなく受け入れる。<br>・ミスを目撃しているこの1週間はどつと疲れる。ミスは難しく、それを意識し提示することは大変だと思ふ。」と話す。 |                       |                                                                                                                                                                                           |
| 個別相談   | ・これまでの職歴において、職人さんなど色々な人を相手にもっとうまくやってきていた。そのことを思い出してから今の自分のコミュニケーションの取り方を振り返ることができた。                                                                        |                                        |                                                                                                                                      |                       |                                                                                                                                                                                           |
| その他    |                                                                                                                                                            |                                        |                                                                                                                                      |                       | 退寮にあたり荷物を整理。その際、備品のハンガーを段ボールにしよう。(指摘)<br>→自分の記憶が納得できない。                                                                                                                                   |
| 体調     |                                                                                                                                                            |                                        |                                                                                                                                      |                       |                                                                                                                                                                                           |
| 睡眠     |                                                                                                                                                            |                                        |                                                                                                                                      |                       |                                                                                                                                                                                           |

意味づけ・自我同一性  
再統合  
受容  
代償・調整  
理解  
自己認識・柔軟性  
悲嘆



受障前の仕事で難しい人間関係をうまくこなせていたことを思い出すことで、今の自分を振り返ることができた。



障害や考え方、行動など今までのことを整理して今後活かして働きたい。

---

## VI.引用・参考文献

---

- 1) 高次脳機能障害を有する者に対する職業講習の指導技法に関する研究,障害者職業総合センター調査研究報告書No.32,pp 45,1998
- 2) Ben-Yishay Y, Diller L, Daniels-Zide E 大橋正洋(訳):米国における神経心理学的リハビリテーション,千野直一安藤徳彦(編集主幹),大橋正洋,木村彰男,蜂須賀研二(編集):リハビリテーションMOOK4 「高次脳機能障害とリハビリテーション」,金原出版株式会社,pp1-11,2001
- 3) 先崎章,枝久保達夫,新井美弥子:ニューヨーク大学医療センター・ラスク研究所「脳損傷者外来通院治療プログラム」で行われている集団を利用した認知・心理療法,Journal of Clinical Rehabilitation, Vol.8 No.6, 1999
- 4) 中島恵子:理解できる高次脳機能障害 脳の障害と向き合おう!,第3版.ゴマブックス株式会社,2001
- 5) 中島恵子:理解できる高次脳機能障害 やってみよう!記憶のリハビリ,ゴマブックス株式会社,2003
- 6) 中島恵子:理解できる高次脳機能障害 家庭でできる脳のリハビリ「注意障害」編,ゴマブックス株式会社,2002
- 7) 安保雅博:脳外傷のリハ医療介入ー就労支援にむけて,JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION,14,4,pp 313,2005
- 8) 大橋正洋:脳外傷の特性と就労支援,JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION,14,4,pp 314-318,2005
- 9) 先崎章:就労支援にむけたリハ評価,JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION,14,4,pp 320-321,2005
- 10) 橋本圭司:就労支援にむけたリハ医療介入,JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION,14,4,pp 326-330,2005
- 11) 永吉美砂子,石井里衣,安野敦子,内田恵,上田幸彦,高橋雅子,河合雅代,塩永淳子:ケースにみる就労支援 関係機関との連携により,復職・就労定着に成功した1例,JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION,14,4,pp 333-337,2005
- 12) 小林恒三郎:ケースにみる就労支援 神経症的傾向が顕著であった頭部外傷症例の復帰,JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION,14,4,pp 338-341,2005
- 13) 原元彦,遠藤てる,立石雅子,坂爪一幸,武田克彦,高橋玖美子,本田哲三(編集):高次脳機能障害のリハビリテーションー実践的なアプローチー,株式会社 医学書院,2005
- 14) 永井肇(監修),蒲澤秀洋,阿部順子(編集):脳外傷者の社会生活を支援するリハビリテーション[実践編]~事例で学ぶ支援のノウハウ~,中央法規出版株式会社,2003
- 15) 島菌安雄,保崎秀夫(編集主幹),大橋博司(編集企画):精神科MOOK1 失語・失行・失認,金原出版株式会社,1988
- 16) 高次脳機能障害者のための効果的な支援方法(構想)~医学的リハから職場復帰への円

- 滑な支援を中心として～,障害者職業総合センター職業センター実践報告書,No.4,1999
- 17)脳損傷者の就業定着に関する研究,障害者職業総合センター,資料シリーズNo.28,2003
- 18)リワークプログラムとその支援技法 在職精神障害者の職場復帰支援プログラムの試行について,障害者職業総合センター職業センター実践報告書,No.12,2004
- 19)エドガーH. シャイン,金井壽宏(訳):キャリア・アンカー 自分の本当の価値を発見しよう,株式会社 白桃書房,2003
- 20)エドガーH. シャイン,金井壽宏(訳):キャリア・サバイバル 職務と役割の戦略的プランニング,株式会社 白桃書房,2003
- 21)精神障害者等を中心とする職業リハビリテーション技法に関する総合的研究(中間報告),障害者職業総合センター調査研究報告書,No.52,2002
- 22)精神障害者等を中心とする職業リハビリテーション技法に関する総合的研究(最終報告書),障害者職業総合センター調査研究報告書,No.57,2004
- 23)精神障害者等を中心とする職業リハビリテーション技法に関する総合的研究(活用編),障害者職業総合センター調査研究報告書,No.64,2004
- 24)高次脳機能障害者に対する職場復帰支援－実践事例編－,障害者職業総合センター職業センター実践報告書,No.16,pp4-5,2005
- 25)高次脳機能障害者に対する職場復帰支援～職場復帰支援～プログラムにおける事業主支援(事前調整)から～,障害者職業総合センター職業センター実践報告書,No.11,2003
- 26)高次脳機能障害を有する者の就労のための家族支援のあり方に関する研究,障害者職業総合センター調査研究報告書,No.58,2004
- 27)職業センター職業準備訓練における指導方法(2)～セルフ・マネジメント・トレーニングを中心に～,障害者職業総合センター職業センター実践報告書,No.10,2002
- 28)色井香織・他(医療相談開発部):高次脳機能障害を有する患者に対するグループ指導プログラムの開発と実践,2005
- 29)P.A.アルバート,A..C.トルートマン,佐久間徹,谷晋二(監訳):はじめての応用行動分析 Applied Behavior Analysis for Teachers,有限会社 ニ瓶社1994
- 30)松崎有子:知られざる高次脳機能障害 その理解と支援のために,せせらぎ出版,2002
- 31)高次脳機能障害者に対する職場復帰支援 職場復帰支援プログラムにおける2年間の実践から,障害者職業総合センター職業センター実践報告書,No.9,2001
- 32)障害の知識と理解の促進シリーズ 高次脳機能障害を理解するために 事例集,障害者職業総合センター職業センター実践報告書,No.13,2004
- 33)高次脳機能障害者リハビリテーション等調査研究会(編集):高次脳機能障害の診断・リハビリテーションマニュアル,東京都衛生局医療計画部医療計画課,2002
- 34)橋本圭司:平成17年度第1回職業リハビリテーション実践セミナー 高次脳機能障害者の特性と医学的リハビリテーション,障害者職業総合センター(主催)
- 35)東京都リハビリテーション病院 高次脳機能障害者講習会,2005

障害者職業総合センター職業センター実践報告書 No.18  
高次脳機能障害者に対する支援プログラム  
～利用者支援、事業主支援の視点から～

---

編集・発行 独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構  
障害者職業総合センター職業センター  
〒261-0014 千葉県美浜区若葉3丁目1-3  
電話 043-297-9112

発行日 平成18年3月

印刷・製本 (株)こくぼ